オスマン朝末期演劇資料に見られるトルコ古典音楽演奏記録

松本 奈穂子*

Ⅰ．はじめに
Ⅱ．東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所所蔵演劇資料の概要
Ⅲ．トルコ古典音楽に関する記載情報
Ⅳ．結論

Ⅰ．はじめに

オスマン朝末期の19世紀から20世紀初頭は，さまざまな分野で西洋化が進んだ時代であった。音楽分野においても事情は同様である。1826年旧来の軍楽隊メフテル廃止と西洋式軍楽隊を含めた帝室音楽隊の導入によって，トルコ古典音楽とともに西洋古典音楽の学習と演奏が積極的に進められた[1)]。高官や宗教，皇族の中にも自ら音楽を嗜む者，作曲を行う者が多数存在した。宮殿内には劇場も設けられ，宮殿お抱えの楽師たちがいた。トルコ古典音楽と西洋古典音楽は隔離された存在ではなく，相互に影響を与え合い，文化触変によるさまざまな変化を見せている。このような状況にあった音楽は，舞踊や演劇などの関連芸能とも連動して，多彩な文化活動の様相を見せていたといえる。

このような音楽シーンの劇的な変容・国際的なオスマン帝国の立ち位置の変化とそれに伴うアイデンティティの覚醒によって来るべき将来へとつながる理想の音楽に関する知識人らの言及は，オスマン朝末期からトルコ共和国初期にかけて，これから目指さねばならない音楽の方向性が，新たに芽生え始めた民族意識とともに盛んに議論された。これら知識人の発表した論説にかかわる研究は2000年あたりから進みはじめている。

他方，宮廷内や市井の娯楽としての演奏記録に関する研究はあまり進んでいない。トルコ古典音楽に関しては，作品研究や作曲家研究，理論研究は進んでいるものの，時系列的な研究がそれほど盛んではないのが実情である。そもそもトルコ古典音楽作品は本来口頭伝承を旨とするため，作曲年，初演年といった情報がほとんど無い。また，作曲家の略歴に関しても，伝聞が多いため，時系列的情報が少ない。この２点に関しては，クロノロジカルな研究よりも作風

投稿日2017年9月21日　　受理日2017年11月22日
＊教養学部芸術学科音楽学課程准教授

研究にとどまっている状態が多い。演奏記録自体はなくとも間接的な記録として，演奏の場の新聞告知などから，演奏情報を確認する研究方法は Kalender などにより行われている。しかしこれらの新聞告知には，日時・場所・団体名などの記載はあっても演奏曲目の詳細まではなかなか掲載されない。大都市イスタンブルにおいて，多くの演奏活動が盛んにおこなわれていたであろうことは紛れもない事実であるはずなのだが，その実態に具体的に迫ることのできる資料がなかなか見つかりにくいのである。

このような状況の中で，東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所所蔵のオスマン朝演劇ポスター（以下 AA 資料と記述）は，トルコ音楽史研究においても貴重な情報を提供する資料であると考えられる。同資料はトルコ史学者永田雄三と共同研究者のトルコ史学者江川ひかりによって，主に演劇史の観点から分析されており，その成果の一部は1999年以降ウェブ公開および出版されている（永田 2006, 永田・江川 2015）[2)]。こうしたオスマン朝の演劇資料は，その性質上，演劇研究の観点からセヴェンギルやアンドらをはじめとした研究者によって言及されてきているが（SEVENGİL 1961, 1968; AND），音楽学からの研究は管見の限りこれまでない。実際，AA 資料においても，音楽関連記述は，演劇関連記述に比すればたいへん少ない。しかしながら，その少ない情報の中には，従来のトルコ音楽史研究－オスマン朝期の－で蓄積されにくかった重要な情報がいくつか存在する。①公演日情報，②出演演奏家情報，③演奏曲目情報，④作曲家情報，の 4 点である。新聞告知には①は必要最大限の情報として記載されるが，②は代表者，団体名のみの場合も多く，③は記載されないことも多い，④はまず記載されない，という点で，とりわけ重要である。少なくとも AA 資料に関する新聞告知情報を用いた研究は，まだ出ていない。松本2016では AA 資料内の音楽関連データを抽出してラテン文字表記にて一覧化し，トルコ古典音楽に関しては表記されている演奏家，作曲家についても概観した（ラテン文字表記一覧に関しては修正事項も多いため，別稿にて改めて作成する）。これを踏まえ，本論では，上記 4 点の情報の整理と分析を行うことを目的とする。

資料自体の記載日付が誤記の場合もあるので，併せて，演奏トルコ古典音楽作品の詳細が記載されている資料に関する新聞の予告などの有無も調べた。

たとえその記載情報数は少なくとも，AA 資料におけるこれらトルコ古典音楽関連情報を整理・公開することは，AA 資料が帝都イスタンブルにおける音響文化の一側面を鮮やかに描き出している貴重な音楽文献資料であり，トルコ古典音楽史研究においてこうした演劇資料も重要な研究資料となることを示すとともに，作曲家や作品のクロノロジカルな研究において，これまで明らかにされていなかった情報を提示するという点で重要な貢献をすると考えられる。また，AA 資料は広告対象日程の音楽関連演目のみでなく，関連付随した音楽情報も含むことがある，という点においても重要である。例えば B16では毎金・日曜日に，主要演目の他，カント，デュエットとともにヴァイオリン奏者アシュキーの 6 人編成楽団が出演，という情報が記されている。これにより当該資料からは当日の出演者情報のみでなく，そのシーズンに契約出演予定の音楽家たちのスケジュールも把握することができるのである。

このような興行は，興行主の意向も当然反映されるが，同時にそれを享受する民衆にも受け入れられねば成立し得ない。イデオロギーとしての音楽史研究と同時に，当時まさに生きてい

た民衆の需要傾向をも反映する資料から得られるデータは，当時の都市空間を彩る重要な情報として，研究される意義が十分にあると考える。知識人たちの言説のみではなく，こうした資料から市井の声をも拾い上げてこそ，当時の社会の動態をより具体的に理解することができると考える。

Ⅱ．東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所所蔵演劇資料の概要

AA 資料の内容は1880-1920年頃までのオスマン朝末期演劇ポスター，パンフレットである。合計169点176枚（232面）からなり，このうち縦長のポスターは117枚（119面），横長のパンフレットは52点59枚（113面）である。公演日朝からチケット売り場が開いていることや（F２），チケットの払戻の可否などが明記されているものもある。新聞にて当日あるいは前日から掲載される上演広告にも「詳細はチラシ el ilanı 参照」とあることや，資料記載情報の修正が新聞広告に掲載される場合もあることから，これらがその事前に配布されたチラシに該当する可能性も高い。AA 資料自体の具体的な特性は永田2006および永田；江川2016に詳述されているので，ここでは音楽関連記載情報の傾向についてのみ述べる。

AA 資料中に記載されている音楽および舞踊等も含めた主な音楽関連ジャンルは，大別すると，①西洋古典音楽，②トルコ古典音楽，③トルコ民俗音楽，④行進曲，⑤カント，⑥西洋歌謡，⑦西洋舞踊，⑧トルコ（オスマン朝）・西洋以外の音楽，⑨オペレッタ，⑩歌（舞踊）付随劇，⑪バレエ，⑫夢幻劇，⑬ボードヴィルなどである。アクロバットなどにおける伴奏音楽の有無は不明であったため，この分類には反映させていない。また，後述のように上記ジャンルに分類することが難しい演目もある（例えばブランシュ嬢の歌はどのジャンルに属するものなのか不明であるうえ，インジェ・サズの伴奏で上演と断っている資料も存在する。これはインジェ・サズ以外の楽器での伴奏による上演もあることを示唆するとともに，それぞれの伴奏形態による歌謡がどのジャンルに属するかを明らかにすることが現時点では困難である。）。さらに，同一演目が異なるジャンル表記で演じられている事例からも理解されるように，上記ジャンル区分は厳格なものではないことをことわっておかねばならない。本稿で検討するジャンルは②のトルコ古典音楽である。

②を示す語彙として，資料中に，トルコ古典音楽やオスマン音楽という文言は出現しない。このジャンルを表す文言として最もよく使われているのは「インジェ・サズ ince saz」である。ヨーロッパ音楽を示す語彙としてアラフランガ alafranga の語は大いに用いられているが，その対語としてのアラトゥルカ alaturka はトルコ古典音楽を指すものではなく，民俗音楽を示すものとして用いられている。本稿では同ジャンルを示す文言として，現在当該ジャンルを表す日本語訳として定着している「トルコ古典音楽」を用いる。

インジェ・サズ楽団の出演表記は84面に見られる。このうち演奏されるマカームや曲名が表記されているものは全てパンフレット資料である。ポスターのほとんどは，ポスター下部にオーケストラ楽団に関する表記とともに「○人編成によるインジェ・サズ楽団により開幕前および幕間に演奏」という表記があるのみである。１，２行の短い情報ではあるが，この有無によ

り演劇公演にどのような他の表演芸術要素が加味されていたか，興行全体をさらに面白くさせるための工夫が凝らされているか，音楽が当時どのように民間娯楽の分野で消費されていたかを知ることができるという点でたいへん貴重であると考える。

次章にて具体的なトルコ古典音楽演目記載のある資料について検討を加える。

Ⅲ．トルコ古典音楽に関する記載情報

AA資料中，具体的なトルコ古典音楽演目記載のある資料は上述のようにすべてパンフレット資料で，上演年順に1916年９月７日（木）（資料番号G14，G15），1920年８月３日（火）（F８，F９），1921年３月５日（土）（G８，G９，G10，G11），他は上演年は不記載で日付が３月10日（水）（F２，F３，F４，F５），11月23日（水）（G３，G４，G５，G６），３月16日（火）（C６，C７），12月１日（水）（F21，F22，J６，J７），７月３日（E22，E23）の８日分12枚24点である。当該記載情報はマカーム，曲種，シャルクの冒頭歌詞，作曲家である。作曲家については全く記載が無いもの，一部記載されているものなど，様々である。本稿では各演目のうち作曲家が確認できるものに関して補足を行った。これらの情報確認のためにTRT古典音楽レパートリー一覧などの他，現代及び上演当時に出版された歌詞集や楽譜集を参照した。歌詞集は出版年が記載されているものが多いが，楽譜のほとんどは出版年が不明である。演目や団体名，人物名など固有名詞の訳語は本資料サイトおよび永田2006，永田；江川2016に準じた。

Ⅲ-１．1916年９月７日（木）の上演パンフレットにおけるトルコ古典音楽記載情報

本パンフレットは1916年９月７日木曜日，ベイオールのタクスィーム・ベレディイェ公園にて*İttihad Rehber Mektebi*の主宰で，収益を同校予算に充てるため開催された（G14，G15）。オスマン劇団*Osmânlı Tiyatrosu*，コミック・ナーシド・ベイとその一座*Komik Naşid Bey ve Kumpanyası*など劇団の他，楽隊*Muzika*，トルコ古典音楽楽団*ince saz heyeti*，舞踊*Danslar*，モノローグ*Monolog*，シネマトグラフ*Sinematograf*などが上演されていることから，演劇に限らず多彩な表演芸術を楽しめる内容になっていることがわかる。

G14でBahçe Muzikaと記載されている団体はどういった楽隊か不明だが，同日発刊のikdam7030号によると楽隊に関する記述はヴァリエテ座の「耳の不自由な人の興味」（資料では「耳の不自由な人の演劇への関心」）とあたかも並列して上演される演目であるかのように記されているBahriye Muzikasi海軍の軍楽隊である。パンフレット上ではヴァリエテ座の演目は「耳の不自由な人の演劇への関心」１つのみが記されている。従って，おそらくパンフレット上ではBahriye MuzikasiをBahçe muzikasiと書き間違えたのかもしれないが，どちらが正しいかは現時点では不明である。

登場するトルコ古典音楽楽団は，当時の高名なヴァイオリン奏者メムドゥフ・ベイMemduh Bey率いる15人編成である。演奏内容はニハーヴェンド旋法のファスルとカルジュアル旋法およびキョチェクチェのファスルである。補足情報は表Ⅲ-１-１の通りである。

表Ⅲ-1-1

番号	資料記載情報		筆者補足・修正情報	
	演目	作曲者	ウスール/旋法	作曲者
Karcığar ve Köçekçe Faslı				
1	Peşr[ev]	不記載		不明
2	Şarkı…Dinle Akılın	不記載	Ağır Aksak	Hacı Ârif
3	Şarkı…Ey Felek	不記載	Ağır Aksak	Asdik Ağa
4	Şarkı…Tir-i çeşmüygahınra	不記載		Selânikli Ahmet Efendi
5	Taksîm..(Kemân ile)	—	—	—
6	Şarkı..Yıkma Sakın	不記載		Hacı Ârif
7	Şarkı..Bir Goncaya	不記載	Semai	Hacı Ârif
8	Şarkı..Sinemi sad-pâre	不記載		Klarnetçi İbahim
9	Taksîm	—	—	—
10	Şarkı..Gönül Beni Usandırdı	不記載	Aksak	Selânikli Ahmet Efendi
11	Şarkı..Elimde İken	不記載		Lavtacı Hristo
12	Şarkı..Gönül Bezmi	不記載	Curcuna	Hacı Ârif
Nihâvend Faslı				
1	Peşrev	Osmân Bey'in		
2	Şarkı..Nâr-ı ʻÂşıkınla	不記載	Ağır Aksak	Rıf'at Bey
				Haşim Bey
				Hacı Ârif
3	Şarkı..Ahteri Düşkün	不記載		Hacı Ârif
4	Şarkı..Bir Nigehle Yakdın	不記載	Devri Hindi	Misak Ağa
				Ûdî Âfet
5	Taksîm (Ûd) ile	—	—	—
6	Şarkı..ʻÂşık-ı Ateşi	不記載	Devri Hindi	Hacı Ârif
7	Şarkı..Dil Seni	不記載		Lavtacı Civan Ağa
8	Şarkı..Bugün Deli Dîvâneden	不記載		Kânûnî Artaki Candan
9	Taksîm (Kânûn ile)	—	—	—
10	Şarkı..Nâle-i Cângâh	Tanbûrî Cemîl Bey'in	Curcuna/Neveser	Ûdî Afet Mısırlıyan
				Hacı Ahmed Faik Bey
			Ağır Aksak/ Bestenigar	Rıf'at Bey
11	Şarkı..Bakmıyor Çeşm-i Siyâh	不記載		Hacı Ârif
12	Şarkı.. [Aman] Ey Gonca Nevr[es] Nihâlim	不記載	Curcuna	Rıf'at Bey
13	Sâz Semâʻîsi	Yûsuf Paşa'nın		

（AA資料，Tahsin 1322［1906］, Emri 1324（Yeni Şarkı Mecmuası cuz5, Tahsin 131（Güldeste-i Musiki Cuz3, Tahsin 1317（Güldeste-i Musiki Cuz4:, Tahsin 1322, Ûdî Sâmi 1337［1921］, Kemençeci Aleko 1331［1915］, TRT1979, Öztuna 2006a,b, Salgar 2011をもとに作成）

ペシュレヴを除いたカルジュアル旋法の9曲は，表Ⅲ-1-1補足欄に記したように作曲家が推定可能である。カルジュアル旋法のペシュレヴはウード奏者アルシャクや，オンニク・ザドルヤンらが出版したカルジュアル旋法の組曲集にあるタトゥヨス Tatyos のペシュレヴである可能性が高いかと考えられる。ニハーヴェンド旋法は合計12曲のうち3曲に作曲家名が記載されている。このうち10曲目の歌曲 *Nâle-i Cângâh* の作曲家は記載されているタンブーリー・ジェミール・ベイではなく，参考資料によれば複数の作曲者名が該当する。それはウード奏者ア

フェト・ムスルルヤン，ハジュ・アフメト・ファーイク・ベイである。作曲家名が記載されていない2曲目 *Nâr-ı ʻÂşıkınla* には3名の作曲家名が出典にある。同じく作曲家名不記載の4曲目 *Bir Nigehle Yakdın* には2名の候補が考えられる。

ニハーヴェンド旋法8曲目 *Bugün Deli Dîvâneden* は，歌詞集によれば恋愛をテーマにしたカント歌謡である。カントは前述のようにAA演劇資料では他ジャンルとして古典音楽演奏とは区別して記載され，ペルーズ嬢やシャムラーム嬢らをはじめとした高名なカント歌手によって歌われていることを示す記載情報が多数を占める―伴奏はオーケストラ，トルコ古典音楽合奏団など多様―が，ここではトルコ古典音楽の一レパートリーとして演奏されている。カントのみを扱った歌詞集や楽譜も出版されているが，カントを多数収めたトルコ古典音楽楽譜集も見受けられる。作曲者不明のものも含まれているが，作曲者が明確な作品は含まれやすい傾向があるかもしれない。ユースフ・パシャは19世紀末作曲家の中で，タンブーリー・ビュユク・オスマン・ベイの次に偉大な器楽作曲家であり，本資料所収のサズ・セマーイースィも彼の秀作の1つとされている（Öztuna 2006b: 507）。

候補者も含めた作曲家の生没年および出現曲数を示したものが表Ⅲ-1-2である。

表Ⅲ-1-2

作曲家	生没年	曲数
Karcığar ve Köçekçe Faslı		10
Hacı Ârif	1831-1885	4
Asdik Ağa	1846-1912	1
Selânikli Ahmet Efendi	1868(9)-1927	2
Klarnetçi İbahim	?-1925	1
Lavtacı Hristo	?-1914	1
Nihâvend Faslı		11
Osmân Bey'in	1816-1885	1
Rıf'at Bey	1820-1888	1[1]
Haşim Bey	1815-1868	[1]
Hacı Ârif	1831-1885	3[1]
Misak Ağa	?-1930?	[1]
Ûdî Âfet	1850-1922	[2]
Lavtacı Civan Ağa	?-1910?	1
Kânûnî Artaki Candan	1885-1930	1
Hacı Ahmed Faik Bey	1831-1891?	[1]
Yûsuf Paşa'nın	1821-1884	1

（生没年は Öztuna 2006a,b をもとに作成）

カルジュアルおよびキョチェクチェのファスルに含まれる演目の推定作曲家は計5名，うち2名は上演当時存命中，残る3名のうちハジ・アーリフは没後30年と没後時間がややたっているが，他の2名は没後5年以内で同時代作曲家の作品と考えることが可能である。ニハーヴェンド・ファスルに含まれる演目の推定作曲家は計10名，うち2名は上演当時存命中，残る3名のうちハジ・アーリフは没後30年と没後時間がややたっているが，同時代あるいは直近の時代の作曲家作品を上演していることがうかがえる。

Ⅲ-２．1920年８月３日（火）の上演パンフレットにおけるトルコ古典音楽記載情報

本パンフレットは1920年８月３日火曜日（ルーミー歴1336年第８月３日），シェフザーデバシュのミッレト劇場にて昼の部は女性，夜の部は一般向けに開催された[3]（F８-９）。コミック・ナーシド・ベイやブランシュ嬢，アゼルバイジャンの芸術家ヴェラ・アルセン[4]，トルコ古典音楽楽団 *ince saz heyeti*，カント，バレエ，舞踊 *Raks*，*Dans*，映画などが上演されていることから，演劇に限らず多彩な表演芸術を楽しめる内容になっていることがわかる。この日上映された映画は名前表記から，チャップリン登場前の喜劇王であったフランスの俳優，コメディアンで脚本家・映画プロデューサーでもあったマックス・ランデー Max Linder（1883-1925）かと考えられる。ブランシュ嬢はAA資料の中で複数パンフレットに登場し，後述の如くその多くで重要な役割を演じているにもかかわらず，永田も述べるように演劇関連文献にその存在がほとんど記されていない。現時点で確認できているのは，ギリシャ系（永田・江川2015: 236-237）とアルメニア系という二つの説があること，アルメニア系説では1920年代の舞台で彼女が大変活躍したこと，戦争のための募金などを舞台上から募っていたこと，などである。仮に後者の説に従った場合，AA資料でブランシュ嬢が登場する他の資料――彼女が登場する資料で上演年が記載されているものは次節で検討する資料も含め２点のみである――もおおよそ1920年代の公演という上演時期推定につながる。確実な情報では無いが，本稿における後述の上演年推定に関しては，この情報も考慮に入れる。登場するトルコ音楽楽団は「スルタンの筆頭器楽演奏家にして敬愛なるイスマイル・ハック・ベイ率いる（一般）インジェ・サズ楽団 *Ser-sâzende-i hazret-i şehriyâr-ı mu'allim-i muhterem İsmâ'îl Hakkı Bey idâresindeki İnce Sâz Hey'eti Umûmîyesi*」という紹介文言が記されているが，ここにも誤記がある。イスマイル・ハックは筆頭器楽演奏家ではなく，筆頭声楽家 *Ser- hânende* である。同時に彼は手がけた曲が2000近いとも言われるほど多作の作曲家でもあり，私営のオスマン音楽学校 *Mûsikî-i Osmâni Mektebi* をフェヴズィイェのコーヒーハウスの上に設立し，多くの弟子を育てた。1909年８月28日 ikdam 5365号には，彼が同学校で行う夜の授業の広告が掲載されている。理論や出版楽譜に誤りもあったが，メフテルの再設置に尽力し多くの楽曲を提供，1919-1922まで活動を続けたイスタンブル・オペレッタ団の運営，旋律学校に1917年設立時より参画し理論やファスルの授業を担当，1926年にはラーウフ・イェクター Rauf Yekta（1871-1935）やゼカーイーザーデ・アフメト（ウルソイ）Zekâizâde Ahmet Bey（Irsoy）（1869-1943）らとともに同校におけるトルコ古典音楽編纂委員会の一員ともなるなど，同時期における重要人物の一人である。民衆向けの演奏会を積極的に催す中で，30-40人編成という大所帯の楽師たちを舞台上に半円状に並ばせ，後方には起立で歌う声楽家たち，前方には譜面台を置いて楽譜を見ながら演奏する器楽演奏家たちを配置するという演奏形態も，トルコ古典音楽演奏において初めて彼がおこなったものであるとされる[5]。AA資料に現れる演奏家たち――少なくとも代表者たち――の中には，当時の重要な音楽家たちも含んでいることが，こうした情報から窺える。彼が率いる本楽団の固有名称は記されていないが構成メンバーの記載があり，その詳細は表Ⅲ-２-１の通りである。

表Ⅲ-２-１ 1920年８月３日火曜日上演パンフレットに出演のトルコ古典音楽団構成メンバー

ジャンル区分	演奏家名および演奏楽器名	人数
Hânendegân（声楽）	Rızâ Bey, İzzeddin Bey, Hâfız Mustafa Bey, Ali Bey	4
Sâzendegân（器楽）	Nısfiye - Sâmi Bey; Kemân - Necâbeddin Bey; Kemân - Fâyik Bey; Kânûn - Şevkî Bey; Ûd - Şevkî Bey ; Ûd - Ahmed Bey	6
声楽家４名，器楽演奏家６名（ヌスフィエ１，ヴァイオリン２，カーヌーン１，ウード２）計 10 名		10

AA 資料に記載されているトルコ古典音楽関連演奏家情報のほとんどが，演奏団体の概要，より詳しい表記でも演奏団体の代表者名のみ記されている中で，構成メンバーと演奏担当区分の記載情報はたいへん貴重である。これら構成メンバーの特定はこの記載情報のみでは難しいが，代表者イスマイル・ハック・ベイと何らかの交流がある人物の中から，ある程度の推定は可能である。例えばウード奏者シェヴキー・ベイ Ûdî Şevki Bey はイスマイル・ハック・ベイの弟子でもあり，高名なタンブール奏者ジェミール・ベイ Tanbûrî Cemil Bey のレコード録音に伴奏参加したシェヴキー・ベイ（1880-1959）[6] の可能性もある。同様に声楽家の一人イッゼッディン・ベイ İzzeddin Bey はイスマイル・ハック・ベイの助手を務めた作曲家兼声楽家のイッゼッディン・ヒュマーイー・エルチオウル Muallim İzzeddin Hümâyî Elçioğlu（1875-1950）[7] の可能性もある。（両者よりも可能性は低くなるが，ウード奏者の一人アフメド・ベイは，当時のイスタンブルで市井の有名な音楽家でもあり[8]，上記1916年９月７日木曜日上演パンフレットで作曲家の一人として名が挙がっているセラーニクリ・アフメド・エフェンディとも考えられる。）

曲目記載情報および補足情報は表Ⅲ-２-２の通りである。

演目はシェットアラバーン旋法のファスルで，10曲の記載がある。１曲目ペシュレヴの作者として記されているタンブーリー・オスマン・ベイは同名の大小２名いる。このうち同旋法のペシュレヴを作曲しているのは大オスマン・ベイである。３曲目は73曲伝来しているハーシム・ベイの作品中最高傑作であり，以後同旋法で作曲されるシャルクの手本ともなった作品で

表Ⅲ-２-２ 1920年8月3日火曜日上演パンフレット演目

No.	資料記載情報			筆者補足・修正情報	
	曲目	演奏者/作曲者	作曲者	ウスール/旋法	作曲者
Şetarabân Faslı					
1	Taksîm; Kânûn ile	Şevkî Bey	—		
2	Peşrev	—	Tanbûrî Osmân Bey'in	Hafîf	Tanbûrî Osmân Bey(Büyük)
3	Şarkı.. Ateş-i Aşkın	—	Hâşim Bey'in	Ağır Aksak	
4	Şarkı; Ateş-i Hicrân	—	İsmâ'îl Hakkı Bey		
5	Şarkı; Gözümden gönülümden	—	Dede Efendi'nin		
6	Taksîm	Hânende Hâfız ve Ûdî-i Şevkî Beyler	—		
7	Şarkı; Senin aşkın ile	—	İsmâ'îl Hakkı Bey'in		
8	Şarkı; Bahçelerde	—	Denizlioğlu'nun	Yürük Aksak	Denizoğlu (Ali Ağa)
9	Taksîm Kemân ile	Necâbeddin Bey	—		
10	Saz Semâ'îsi	—	Tanbûrî Cemîl Bey		

（AA 資料，TRT1979, Öztuna 2006a, b, Yılmaz 2013をもとに作成）

ある（Öztuna 1969a: 257）。10曲目のサズ・セマーイーはタンブーリー・ジェミール・ベイの作品の最高傑作であり，トルコ古典音楽の器楽曲の中でも最も素晴らしい作品であり，２曲目のペシュレヴは彼の作品のうちサズ・セマーイーの次に位置する秀作である（Öztuna 1969a: 129）。７曲目はイスマイル・ハック・ベイの作品の中でも評価されている作品のひとつである（Öztuna 1969a: 310）。ハシム・ベイのシャルクは同じシェッディアラバーン旋法で作曲されたシャルクの手本となったとされており（Öztuna 1969: 257），彼の代表作の１つであると同時に，同旋法によるシャルクの代表作の1つとしても捉えることができよう。

出現作曲家の生没年および出現曲数を示したものが表Ⅲ-２-３である。

表Ⅲ-２-３

No.	**作曲者**	**作曲者生没年**	**曲数**
1	Tanbûrî Osmân Bey(Büyük)	1816-1885	1
2	Hâşim Bey'in	1815-1868	1
3	İsmâ'îl Hakkı Bey	1866-1927	2
4	Dede Efendi	1777-1845	1
5	Denizoğlu (Ali Ağa)	?-1860?	1
6	Tanbûrî Cemîl Bey	1871-1916	1

代表者イスマイル・ハック・ベイ自身の曲が２曲含まれている。４年前に他界したタンブーリー・ジェミール・ベイと彼以外は19世紀に活躍した作曲家で，それもデデ・エフェンディをはじめ大家の作品が多い。タンブーリー・ジェミール・ベイはトルコ古典音楽最大のヴィルトゥオーゾとも称されるように演奏家としての名声が高いが，寡作ながら上述のように優れた作品も手がけている。このように，高名な作曲家・代表的な作品などを含んだ選曲となっている。（また，AA 資料では同時代の作曲家作品が多いことが１つの傾向だが，本資料のファスル演目はどちらかというと古典志向である。その中に自らの作品をも入れたというあたり，イスマイル・ハック・ベイの自作への自信がうかがえる。）

表Ⅲ-２-４

番号	**資料記載情報**			**筆者補足・修正情報**
	曲目	**演奏者/作曲者**	**作曲者**	**ウスール/旋法**
1	Taksîm	Kornet-i Şehîr Mucâhid Bey	―	―
2	Bülbül Kantosu	Kornet-i Şehîr Mucâhid Bey	不明?	不明
Kemânî Necâbeddin Ûdî-i Şevkî ve Hâfız Mustafa Beyler birlikte				
3	Râst Taksîm	Kemânî Necâbeddin Bey ,	―	―
4	Leb-i renginine bir gül konsun		Muharrir Ahmed Râsim Bey	Sofyan(Düyek)/Rast/Neva Rast
5	Hicâz Taksîm	Ûdî-i Şevkî Bey	―	―
6	Yeni ninni müctemian	Hâfız Mustafa Bey	不明	不明

（AA 資料，Öztuna 2006（1969）a,b, Muharrir Ahmed Râsim Bey n.d., cemal をもとに作成）

本パンフレットでは，他のトルコ古典音楽演奏情報も表Ⅲ-２-４のように記載されている。

コルネット奏者ムジャーヒド・ベイのみが前述の楽団員ではなく，単独で演奏を行っている。彼が演奏する2曲の旋法名は不明である。「有名な」ビュルビュル・カントについても詳細が不明であるが，ヒジュラ歴1310年出版の *Yeni Kantolar* に同名曲が掲載されている（Anon. 1310: 34）。もしこの歌詞集掲載曲と同一であるならば，1310年すなわち1892-3年頃にはすでに歌われていたことになる。

４曲目の演奏者記述は無いが，おそらくヴァイオリン奏者ネジャーベッディン，ウード奏者シェヴキー，歌い手のハーフズ・ムスタファ３名による演奏ではないかと思われる。同曲作曲者で作家でもあるアフメド・ラースィム・ベイ（1864-1932）は存命中であり，当時の流行歌謡カントやニンニ *Ninni* などが演奏されていることから，大作曲家たちの作品も含まれている前述のシェッディアラバーン旋法によるファスルよりも現代曲をラインナップした気軽に楽しめる選曲であると考えられる。すなわち，本公演は多彩な演目から成り立っているが，その１つであるトルコ古典音楽ジャンルのみ取り上げても新旧・軽重とりまぜた多彩な選曲となっており，幅広い需要を想定した内容になっているとも見ることができよう。

Ⅲ-３．1921年３月５日（土）の上演パンフレットにおけるトルコ古典音楽記載情報

本パンフレットは1921年３月５日土曜日，シェフザーデバシュのミッレト劇場にて「ブランシュ嬢による盛大な宴，仮面あり・仮面無しの舞踏会」というタイトルの下，昼の部は女性のみ，夜の部は一般に朝まで開催された宴の資料で，２枚４面８頁構成である（G８-11）。タイトルからわかるようにこの上演は単に演劇や音楽を鑑賞するのみでなく，来場者自体が主体となって楽しめる舞踏会という娯楽も提供されていることから，複合エンターテインメントとでも言えよう。前節でも言及したブランシュ嬢は本資料では主催者として名が挙がっている。本公演ではカントやダンスなどおなじみの演目の他，ベンリヤン・オペレッタ劇団による喜劇『めんどり，あるいは70歳の老人の20歳の若妻 *Dişi Horoz Yâhûd Yetmişlik İhtiyarın 20 Yaşındaki Genç Karısı*』の初演，ネルゴッティ指揮のオーケストラ，ダンス教師ダヴィッドがリードする舞踏会など，西洋的な要素も多い。エーゲ海地方の舞踊「ゼイベキ」や黒海地方の「ラズの踊り」など，ナショナリズムやトルコ主義の高揚と連動して本資料の同時期に共通して見られる民俗音楽・舞踊も記載されており，本公演ではブランシュ嬢が踊る。登場するトルコ音楽楽団は，スルタンの器楽演奏家ウード奏者シェヴキー・ベイ――前節で言及した人物と同一と考えられる――率いる25人編成の金角湾体操クラブトルコ古典音楽団 *Halîc İdmân Kulübü İnce Sâz Hey'eti Umûmîyesi* で[9]，上記２団体よりも大編成である[10]。Ikdam 紙8612号では，本公演２日前の３月３日木曜日に，同楽団がやはりシェヴキ・ベイに率いられてベイオールのパンガルトゥ映画館・劇場に出演する広告が掲載されている。シェヴキー・ベイが恒常的にこのクラブの古典音楽団と関わりを持っていたかどうかはまだ確認ができておらず，３公演の情報のみでは確実なことは何も言えないが，ある程度のつながりがあり，少なくとも1921年３月期には複数の場所で活躍していたことがうかがえる。

演奏内容はシェトアラバーン旋法のファスルである。曲目記載情報および補足情報は表

表Ⅲ-3-1 1921年3月5日

No	資料記載情報			筆者補足・修正情報	
	演目	作曲者	演奏者	ウスール/旋法	作曲者
Şetarabân Faslı					
1	Taksîm...Kânûn ile	—	—		
2	Peşrev	Tanbûrî Cemîl Bey Merhum	—		
3	Şarkı..Gam Seni	Kâzım Bey	—		Kâzım Uz
4	Şarkı..Ateş-i Hicrân	Mu'allim İsmâ'îl hakkı Bey	—		
5	Şarkı...Git Elem	Ûdî-i Şevkî Bey	—		
6	Şarkı... Gözmden	Dede Efendi Merhum	—		
7	Taksîm..	—	Kemânî Cevdet Bey		
8	Şarkı..Ey gonca-yı açıl	Ziyâ Bey	—	/Suz-i Dil	Şemseddin Ziyâ Çorluluzâde
9	Şarkı.. Bir Kuzum var	Şevkî Bey	—		
10	Şarkı..Senin aşkın	İsmâ'îl hakkı Bey	—		
11	Saz Semâ'îsi	Tanbûrî Cemîl Bey Merhum	—		

Ⅲ-3-1の通りである。

9曲目の作曲家は本楽団を率い，5曲目の作曲者でもあるウード奏者のシェヴキー・ベイであると考えられるが，彼のこの2曲に関して言及している文献をまだ確認できていないため，あくまでも推定である。シャルクを多く手がけ，トルコ古典音楽界のシューベルトとも言われたシェヴキー・ベイ（?1860-1891?）も考えられるが，これまでに確認できた彼の作品への言及文献にこの曲名は無い。イスマイル・ハック・ベイの2曲，デデ・エフェンディと11曲目のタンブーリー・ジェミール・ベイの作品の4曲は，Ⅲ-2で検討した，本公演の5年前に上演されているイスマイル・ハック・ベイ率いる楽団の演目と共通していることからも，本楽団を率いるウード奏者シェヴキー・ベイはイスマイル・ハック・ベイの弟子であり，Ⅲ-2でも演奏メンバーに加わっていたと考えられるシェヴキー・ベイである可能性が高いと推察される。約半年前に参加した師率いる楽団の演目の半分以上[11)]を継承していること，そのうち2曲は師の曲であること，後述分も含め他のAA資料出現トルコ古典音楽演目と比較した場合，音楽家として高名かつ重要な役割を果たしてはいてもデデ・エフェンディなどのように珠玉の作品ばかりを手がけているわけではないイスマイル・ハック・ベイの曲を演目に加えるのは彼とつながりの強い人物であると考えられるためである。

本公演パンフレットにおける現作曲家の生没年および出現曲数を示したものが表Ⅲ-3-2である。

Ⅲ-2との演目の類似性は指摘したとおりであるが，本公演ではデデ・エフェンディ以外の作曲家は同時代人，うち4名は存命である。Ⅲ-2の古典志向とは異なり，同時代の作品を強く意識した演目となっていることが窺えよう。

上演年記載資料はここまでである。次節からは上演年不記載の資料を扱う。資料中の記載内容や新聞広告等による上演年調査結果を反映させた年代順に進める。

表Ⅲ-３-２

作曲者	生没年	作品数
Tanbûrî Cemîl Bey	1871-1916	2
Kâzım Uz	1872-1938	1
Mu‘allim İsmâ‘îl hakkı Bey	1866-1927	2
Ûdî-i Şevkî Bey	1880-1959	2
Dede Efendi	1777-1845	1
Şemseddin Ziyâ Çorluluzâde	1882-1925	1

Ⅲ-４．３月10日（水）の上演パンフレットにおけるトルコ古典音楽記載情報

本パンフレットは３月10日水曜日，２枚４面８頁からなり，負傷兵支援のためシェフザーデバシュの国民劇場にて前出のブランシュ Blanş 嬢と仲間たちにより行われた盛大な宴の資料である（F２-５）。主な出演者・団体はブランシュ嬢の他，国民的演劇『エフェたちの間で！』を上演したナーシト・ベイとその一座，タンゴや様々なダンス dans, raks，カントを踊り歌うミニヨン・オルガ Miniyon Olga，などの演目も並ぶ。（親愛なる）イフサン・ベイ指揮の25人編成による帝室海軍軍楽隊，ヴァイオリン奏者メムドゥフ・ベイ Memduh Bey とビュルビュル・サーリヒ Bülbül Salih 率いるトルコ音楽楽団 Husûsî İncesâz Hey‘eti などである。F２-３，F４-５は，中央の折り跡，パンフレットの飾り枠のデザインや，出演者の重複などから，表裏印刷の２枚組，おそらく二つ折で合計８ページのプログラムであるため，F４-５には上演日の記載が無い。日付とブランシュ嬢の写真が大きくクローズアップされている F２左側がおそらく表紙であり，『エフェたちの間で』は左右分割が不可能な図柄や文章の配置になっているため，中央に来ると考えられる。即ち順番としては日付とブランシュ嬢の写真のある F２左側が１頁目，フランス語の日付のある F２裏面 F３右側が２ページ目，アールデコ風のイラストの F４左側が３頁目，F４の裏面である F５が見開きで４-５ページ目，F４トルコ古典音楽演奏曲目とブランシュ嬢の演目が書かれている右側が６ページ目，トルコ古典演目のある F３左側が７頁目，チケットの諸注意などが書かれている F２右側が最終の８頁目となると考える。

本資料は上演年不記載であるが，本公演内容と共通した広告が1920年３月10日 *İkdam* 8288号第４面に掲載されており，日付・曜日も同一であるため，本公演上演年は1920年と考える。

興味深いことに同広告には本資料に不記載の音楽上重要な情報すなわちトルコ音楽楽団員の一部も記載されている。前述のように代表者名の記載はあっても，楽団員名まで記載されないことが多い資料の性格上，本情報はたいへん貴重である。ただし，この楽団員名はブランシュ嬢の「ビンナーズ舞踊」に伴奏をする楽団の構成員として紹介されている。しかし，その中にヴァイオリン奏者メムドゥフ――Ⅲ-１におけるトルコ古典音楽団の代表者と同一人物であろう――やビュルビュル・サーリヒの名も最初に挙がっているうえ，総勢20名と演奏者の総数も同じであるため，ファスルを演奏する楽団と同一と考えてよいと思われる。同時に，ブランシュ嬢の「ビンナーズ舞踊」の伴奏がトルコ古典音楽団によって演奏されるという情報も本資料には記載されていないため，同紙の広告内容はこの点でも重要である。

İkdam 8288号楽団員の記載者は合計12名で，前述の２名の他ケメンチェ奏者アナスターシュ

表Ⅲ-4-1

番号	資料記載情報			筆者補足・修正情報	
	演目	作曲者	演奏者	ウスール/旋法	作曲者
Nihavend Faslı					
1	Peşrev	Tanbûrî Cemîl Bey			Tanbûrî Büyük Osman?
2	Şarkı: Ey nihâl emelim	Tanbûrî Cemîl Bey			Arşak Çömlekciyan
3	Şarkı: Ahteri Düşkün	Astik Zâde			Hacı Ârif
4	Şarkı	Bimen Efendi			
5	Taksîm:		Kemânî Memduh Bey		
6	Şarkı: Nâ Murâdım	Astik Zâde		Ağır Aksak	Hacı Ahmed Faik Bey Hacı Ârif
7	Şarkı: Bir gün seni öpmüştüm				Bimen Efendi
8	Şarkı: Seni en nâzlı	Rızâ Bey			Kabdanzâde Kânûnî Ali Rızâ Bey
9	Taksîm:		Kuranetcı İbrahîm - Hânende Fehmî Efendiler		
10	Şarkı: Üç yıl beni	Muhlis Sabahaddin Bey			 Kâzım Uz
11	Şarkı: Yâdigâr kaldı	Astik Zâde			Hacı Ârif
12	Şarkı: Sevdim seni	Tanbûrî Cemîl Bey			
13	Şarkı: Süzüb süzüb	Tanbûrî Cemîl Bey		Sengin semai	Rahmî Bey
14	Sazsemâîsi				
Muhtelif Fasıllar					
1	Uşşâk: Bir görüşde	Bimen Efendi			
2	Acem Kürdî: Sevdi gönülüm Ey meleksîmâ	Astik Zâde			
3	Acem Kürdî: Bizim Vaslın	Selânikli Ahmed Bey			
4	Muhayyer Kürdî: Bir gün olur	Muhlis Sabahattin Bey			
5	Muhayyer Kürdî: Nâzlı güzel bebeciğim	Bimen Efendi			
6	Hicâz: Gel bir daha gül rûyunu aç	Bimen Efendi			
7	Hicâz: İsmini bilmiyordum	Bimen Efendi			
8	Hicâz: Öpeyim ağızını	Sabâhaddin Bey			
Muhtehîren iştirâk eden, pek kıymetdâr San'atkâr-ı şehîr Nâyzân İhsân Bey tarafından (Ziyâfet-i Mûsîkîye)					
1	Taksîm		Nâyzân İhsân Bey		
2	Rehâvi: bir şâh asar	Itri merhum	Nâyzân İhsân Bey		
3	Nihâvend Sâz Semâîsi	Tanbûrî Cemîl Bey merhum	Nâyzân İhsân Bey		
Hânende Fehmî Bey tarafından			Hânende Fehmi		
1	Râst Şarkı: Düşüb bin türlü	Şekip Bey			
2	Taksîm				
3	Nihâvend Şarkı: Üç Yıl beni sevdanın	Muhlis Sabâhaddin Bey			
Kemânî-i şehîr (Memduh) ve(Bülbül-i Sâlih) Beyler					
	Taksîm - Ninni		Memduh		
	Bülbül Taksîmı		Bülbül-i Sâlih		

Anastâş とアレコ Aleko，クラリネット奏者イブラヒーム İbrâhîm，ウード奏者アフメド Ahmed とハサン Hasan，カーヌーン奏者ハーフズ Kanuni Hafız，声楽家としてカラカシュ Karakâş，バシャール Başâr，サードゥク Sadık，そしてサラハッディン・ベイ Salâhaddîn Bey ら10名の名が挙がっている。

上記トルコ古典音楽団は本公演でニハーヴェンドおよび様々な旋法から成るファスル２種を

演奏している。本公演では他にも，①ネイゼン・イフサン・ベイ，②声楽家フェフミー・ベイ，上記トルコ古典音楽団の代表者である③メムドゥフ・ベイとビュルビュル・サーリヒの２名によるトルコ古典音楽演奏が別途行われている。これらの演目・作曲家・誤記修正等の情報は表Ⅲ-４-１のとおりである。

ニハーヴェンド旋法の演奏曲目は，当時出版されている楽譜記載のものと同じであった。当時の定番ファスルの１つであったのかもしれない。ニハーヴェント旋法のペシュレヴはタンブーリー・ジェミール・ベイの作となっているが，彼はこの旋法でペシュレヴを作曲していない。ウード奏者アルシャクやオンニク・ザドルヤンらの出版による同旋法組曲集のペシュレヴに名が挙がる同じタンブーリーのオスマン・ベイの作とも考えられよう。サズ・セマーイスィの作曲者は不記載であるが，これも前述と同じ理由でタンブーリー・オスマン・ベイの可能性が高いか，あるいは彼のペシュレヴにあわせて作られたとされるユースフ・パシャの作品かもしれない。フェフミー・ベイが歌う Düşüb bin türlü は資料中のシェキップ・ベイとセラニクリ・アフメド・ベイによる２種類がある。このシェキップ・ベイはウード奏者として有名なシェキップ・メムドゥフではなく，別の無名の人物ではないかというご意見と，同曲の２種の楽譜情報を国立トルコ古典楽団のメフメト・ギュンテキン Mehmet Güntekin 氏から頂いた。ここに謝意を表したい。イフサン・ベイ演奏３曲目のサズ・セマーイースィもタンブーリー・ジェミール・ベイの作となっているが，これも前述の通りである。

本資料でたいへん興味深い点は，通常同一マカームで統一される組曲が，異なるマカームの曲を次々と演奏する様式が，曲目記載から見て取れることである。当時の楽譜集も旋法ごと，歌詞集も旋法ごとに曲が分類・掲載されているが，当時は様々なマカームの作品が１つの場で一緒に演奏されるというスタイルも好まれていたことを物語る。

トルコ古典音楽ではないが，同資料内に帝室海軍音楽隊によって演奏されたトルコの「国民的」な音楽や西洋古典音楽の抜粋も，以下のように演奏されることが記載されている。

表Ⅲ-４-２

Bahriyye-i Şâhâne Muzikası tarafından icra edilen parçaları			
1	Yeni Zeybek(Millî)		
2	Karmen	Georges Bizet	1838-1875
3	Aida	Giuseppe Verdi	1813-1901
4	Faust	Charles Gounod	1818-1893
5	Fantazi	Giuseppe Verdi	1813-1901
6	Çardaş	Jenõ Hubay	1858-1937

１曲目「新しきゼイベキ」は当時エーゲ海地方での戦線で活躍した義賊が英雄化されてゆく過程を音楽作品の中にも見て取ることができる１つの例である。他はいずれも西洋古典音楽である。ビゼーやヴェルディ，グノーといった有名作曲家のオペラは長大であり，このようなプログラミングで全て演奏することは不可能であるので，おそらく作品中の一節あるいは抜粋が演奏されたのであろう。チャルダーシュは現在はモンティの作品が有名であるが，ここで演奏

されているのはハンガリーの作曲家イェネー・フバイの作品である。

Ⅲ-５．３月16日（火）記載の資料

本資料は貧しい子供たちへのチャリティー公演として行われたもので，裏表両面印刷である（C６，C７）。本資料の上演年を新聞で確認したところ，1920年３月16日の Vakit 紙847号に同催事が４月７日に延期される旨の記事が掲載されていた。さらに，４月７日の Vakit 紙では，同催事がさらに４月28日に延期される旨の記載がなされている。すなわち，本資料の上演年は1920年ではあるが，記載どおりの３月16日には上演されなかったことになる。最終的に延期広告で最後に上演予定日を認めることのできた４月28日の新聞には同催事に関する広告は無いので，当日無事に催事が行われたかどうかは不明である。しかし，資料に記載の公演が記載日通りに行われたかどうかというのは，本資料のみならず他の資料でも立証は不可能であるので，おそらくこの４月28日に開催されたのであろうと現時点では考える。

演目記載面には，横長の紙面が３つに分けられ，中央に『イェディクレの秘密！』という演劇の上演内容が記載，右側にトルコ古典音楽の演奏プログラム，左側に帝室海軍音楽隊の演奏プログラムが掲載されている。トルコ古典音楽の記載内容は表Ⅲ-５-１の通りである。

表Ⅲ-５-１

番号	資料記載情報			筆者補足・修正情報	
	演目	作曲者	演奏者	ウスール/旋法	作曲者
Huzzam Faslı					
1	Peşr[ev]	不記載			不明
2	Şarkı (Ey Melek)	不記載		Ağır Aksak	Nikoğos Ağa İbrahim Vefa Efendi
3	Şarkı(Neş'eyâb-ı)	不記載		Aksak	Hâfız Osman(Musullu)
4	Taksîm	不記載	Hânende - Kemân		
5	Şarkı(Şâd Olurdum)	不記載			Fahri Kopuz
6	Şarkı (Kâşke görmeydi)	不記載			Klarnetçi İbrahim
7	Şarkı (Aşkın ezvâk-ı)	不記載			Klarnetçi İbrahim
8	Taksîm	不記載	Kânûn Hânende		
9	Şarkı(Gerçe o güzel)	不記載		Aksak	Klarnetçi İbrahim
10	Şarkı (Zamânı Varki)	不記載		Aksak	Klarnetçi İbrahim
11	Şarkı..Kabir midir hiç	不記載		Aksak	Mızıkalı Kadri Bey/ İsmail Hakkı Bey
12	Saz Semâ'îsi	不記載			

作曲者不記載資料であるが，調査の結果クラリネット奏者イブラヒムの作品が多いことが目につく。ペシュレヴとサズ・セマーイーは候補が複数あり現時点で断定はできないが，当時出版の組曲集記載曲よりペシュレヴはタタールかオスマン・ベイ，サズ・セマーイーはユースフ・パシャの作品である可能性が強いとも推察できる。第２曲と第６曲は作曲者候補が２名ずついるが，前者はニコオス・アア，後者はムズカル・カドリー・ベイの曲がアルシャクのヒュッザーム組曲集に含まれているので，彼らの可能性が高いかもしれない。演目掲載紙面左側に記載の帝室海軍音楽隊の演奏曲目は，表Ⅲ-５-２のとおりである。

表Ⅲ-5-2

1	Yeni Zeybek Şarkısı			
2	Traviyata	Verdi	Giuseppe Verdi	1813-1901
3	Faust	Guno	Charles Gounod	1818-1893
4	Karmen	Bize	Georges Bizet	1838-1875
5	Değirmen Kanâdları	Farda		
6	Çardaş	Hubai	Jenõ Hubay	1858-1937

演目内容に若干の差異はあるものの，Ⅲ-4の演目と類似していることがうかがえる。定番レパートリーであったとも考えることができよう。また，帝室海軍軍楽隊はこの時期，こうした民間の催事にも出演していたことが理解できる。なお，1曲目のゼイベキには「ミッリー」と記され，他の西洋音楽は「アラフランガ」という説明が曲目説明の冒頭にある。ミッリーの語は民俗音楽・民俗舞踊の演目に付されることが多い他，民俗音楽 / 舞踊が劇中に挿入されたり，国が誇るような何らかの内容をもった演劇の性格を示す文言としても使われている。トルコ共和国建国前から，新生トルコの音楽は「民俗音楽」と「西洋音楽」の融合であるとされ，その素材となる民俗音楽は建国後，国を挙げて収集・整理・普及が行政区分ごとに行われた。オスマン朝末期からトルコ共和国初期にかけての知識人らの論説にも上記の理念は何度も繰り返されるが，民衆の娯楽においても，演目の名称にそうしたイデオロギーの片鱗が，用法が異なる場合もあるにせよ見え隠れしていることが，AA資料からは見て取れる。「国民的な」という意味を持つ「ミッリー」という文言は，しかし同じく国の音楽であるはずの「インジェ・サズ」すなわち宮廷を中心に発展したトルコ古典音楽には用いられることはない。これに対し，本論で中心に扱っているジャンルであるトルコ古典音楽に付される文言は「アラトゥルカ」である。字義どおりには「トルコ風」なので，民俗音楽・舞踊に用いてもおかしくないはずであるが，既に述べたように民俗関連の表象芸術には「ミッリー」が用いられる。西洋化・近代化を志すオスマン朝末期からトルコ共和国初期にかけては，トルコ古典音楽は退廃した忌避すべきジャンルであったことも考え合わせると，「アラトゥルカ」は単に「トルコ風」を示すだけではなく，マイナスの意味もこめられていたかもしれない。アラトゥルカと対極にある「アラフランガ」は「西洋風」を意味し西洋古典音楽を示す際に用いられる。オスマン朝末期，様々な事象が目指していた西洋への憧れを示す言葉でもあろう。ただし，民俗音楽がズルナなどの民俗楽器とともに，トルコ古典音楽楽器も一緒に演奏している場合もある。例えばC25ではインジェ・サズ伴奏で「全く新しい形によるアナトリアとルーメリの国民的民謡と国民的舞踊」が上演されている。また，オーケストラはアラフランガかミッリーが多いが，E8に登場するオーケストラはアラトゥルカとアラフランガ双方を幕前・幕間に演奏している。実演上では，両者の厳密な区分はなく混在していることもあると考えられる事例である。ミッリー，アラトゥルカ，アラフランガという文言は楽器編成よりも，演奏ジャンル自体を指していることが多いのかもしれない。

Ⅲ-6．7月3日（土）の上演記載資料

本資料はオスマン演劇学校によってオルタキョイにおいて開催された公演資料である。1920

年７月３日の ikdam 紙8399号に広告があることから，1920年の上演資料であることがわかる（E22，23）。

主な演目は『王の雌虎』で，表裏両面印刷の横長資料には，フランス語，ギリシャ語，アルメニア語，ヘブライ文字，そしてオスマン語で公演情報が記されている。トルコ古典音楽演奏曲目はオスマン語表記のみの面の右側のコラムに「アラトゥルカ」として記されている。その演目内容は表Ⅲ-６-１の通りである。

表Ⅲ-６-１

番号	資料記載情報		筆者補足・修正情報
	演目	作曲者	ウスール/旋法
1	Bir Görüşde	Bimen Efendi	Uşşâk
2	Bezm-i Vaslın	Selânikli Ahmed Bey	Acem Kürdî
3	Bir Gün Olur	Muhlis Sabâhaddin Bey	Muhayyer
4	Nâzlı Güzel Bebeciğim	Bimen Efendi	Muhayyer
5	Üç Yıl Beni	Muhlis Sabâhaddin Bey	Nihâvend
6	Öpeyim Ağızını	Muhlis Sabâhaddin Bey	Hicâz
7	Gel Bir Daha Gül-rûyunu Aç	Bimen Efendi	Hicâz

表Ⅲ-６-２

Alafranga		
	Karmen (Overtur)	Bize
	Aida (Marş)	Verdi
	Traviata (Hâtme?)	Verdi
	Faust	Guno
	Çardaş(Bar Havası)	Hubay

本資料でも，前出資料同様，通常同一マカームで統一される組曲が，異なるマカームの曲を次々と演奏するスタイルの存在が，曲目記載から見て取れる。演奏団体名は hususi とあるのみで，どういった人物たちによるどのような演奏団体であるのかは記されていない。ここでの演奏曲目はビメン・エフェンディ，セラニクリ・アフメド・ベイ，ムフリス・サバハッディン・ベイら３名で，いずれも同時代の作曲家による作品である。

また，「アラトゥルカ」と対比させ，トルコ古典音楽演目情報のすぐ下に「アラフランガ」として，表Ⅲ-６-２の西洋古典音楽曲目が記されている。このアラフランガ演目を見る限り，前出の西洋古典音楽作品と重複しているものが多いが，演奏団体名は記載されていない。

Ⅲ-７．12月１日（水）の上演記載資料

同資料の広告は1920年12月１日の Ikdam 紙8525号第４面にあるので，1920年の上演であることがわかる（F21-22，J６-７）。当時人気を誇ったブランシュ嬢出演，トルコ古典音楽は「スルタンの器楽演奏家」シェヴキー・ベイが率いる金角湾体操クラブの演奏である。演奏曲目とその詳細情報は表Ⅲ-７-１のとおりである。

表Ⅲ-7-1

番号	資料記載情報			筆者補足・修正情報	
	演目	作曲者	演奏者	ウスール/旋法	作曲者
Kürdîli Hicâzkar Faslı					
1	Küşâd (Kânûn)	不記載			不明
2	Peşrev	Tatiyos			
3	Beste...Gülistân-ı	İsmâ'îl Hakkı Bey			
4	Ağır Semâ'î (Ah Benim)	Bol âhenki Nuri Bey		Ağır Semâ'î	
5	Taksîm		Kemân		
6	Sevdiğim gözlerinin	Ûdî-i Mehmed Bey			
7	Can Esir-i	Bimen Efendi			
8	Gaddar Felek	Klarinet İbrâhîm Efendi			
9	Ta Haşire kadar	Bimen Efendi			
10	Yokdur Elemi	Ûdî-i Mehmed Bey			Ûdî-i Nasib'in Mehmed Yürü
11	Taksîm		Ûd, Hânende		
12	Bir gün olur	Muhlis Sabâhaddin Bey			
13	Hüsn-ü anından	Şevkî Bey			
	Ferâk Yâre	Şevkî Bey			
	Saz Semâ'îsi	Tatyos			
Muhtelif Fasıllardan müntahab pârçalar					
1	Râst:Küşâd		Şevkî Bey		
2	Râst:Muhabbet Bir Nâzlı kuşdur	Muhlis Sabâhaddin Bey			
3	Uşşâk:Bir Görüşde	Bimen Efendi			
4	Nihâvend:Küşâd		Şevkî Bey		
5	Nihâvend:Müjgân Gibi	Muhlis Sabâhaddin Bey			
6	Kürdîli Hicâzkar:Küşâd		Şevkî Bey		
7	Kürdîli Hicâzkar:Nâzlı Güzel Bebeciğim	Bimen Efendi			
8	Hicâz:Gel Bir Daha Gül Rûyunu Aç	Bimen Efendi			
9	Hicâz:İsmini Bilmiyordum	Bimen Efendi			
10	Hicâz:Öpeyim Ağızını	Muhlis Sabâhaddin Bey			
11	Hüzzâm:Küşâd		Şevkî Bey		
12	Hüzzâm:Hicrân İle	Cevdet Bey			

タトゥヨスのキュルディリヒジャーズキャル・サーズ・セマーイースィは現在でも彼の最高傑作（Öztuna 2006b: 381）とされている名曲である。本論で扱った資料にはこのように現在，当該作曲家の代表作とみなされている曲が演目に並んでいる場合もあることから，これらは当時から評価の高い作品であった可能性も考えられる。また，本資料でも「様々なファスルから選び抜かれた作品群」とあるように，キュルディリヒジャーズキャール旋法の組曲とは別に，様々なマカームの作品が混在した演奏も行われていることがわかる。

Ⅲ-8．Teşrîn-i sânî 23. Çarşanba の上演日記載資料

本資料はオスマン統一学校のチャリティ支援目的の公演であるので，演劇主体ではなく多彩な演目が組まれている（G3-6）。本資料の上演に関わる広告は大々的で，İkdam 紙では前日の İkdam 8867号，当日8868（1921 nov 23）号とも他の演劇広告とは別扱いで，4 面の上段に

表Ⅲ-8-1

番号	資料記載情報			筆者補足・修正情報	
	演目	作曲者	演奏者	ウスール/旋法	作曲者
Kürdîli Hicâzkar Faslı					
1	Kânûn	不記載			不明
	Peşrev	Tatiyos			
	Beste...Gülistân-ı	İsmâ'îl Hakkı Bey			
	Ağır Semâ'î (Ah Benim) 'in	Bol âhenki Nuri Bey		Ağır Semâ'î	
	Taksîm		Kemân		
	Sevdiğim gözlerinin	Ûdî-i Mehmed Bey			
	Can Esir-i	Bimen Efendi			
	Gaddar Felek	Klarinet İbrâhîm Efendi			
	Ta Haşire kadar	Bimen Efendi			
	Yokdur Elemi	Ûdî-i Mehmed Bey			Ûdî-i Nasib'in Mehmed Yürü
	Taksîm		Ûd, Hânende		
	Hüsn-ü anından	Şevkî Bey			
	Bir gün olur	Muhlis Sabâhaddin Bey			
	Ferâk Yâre	Şevkî Bey			
	Saz Semâ'îsi	Tatyos			
Müntahab Fasıllardan, latîf pârçalar					
	Şetarabân Peşrev ve				
	Saz Semâ'îsi				
	(Ninni) Taksîm				
	Bir Gün Olur : Muhlis Sabâhaddin Bey	Muhlis Sabâhaddin Bey		Muhayyer	
	Nâzlı güzel bebeciğim :	Bimen Efendi		Muhayyer	
	Muhabbet Nâzlı Bir Kuşdur: Muhlis Sabâhaddin Bey	Muhlis Sabâhaddin Bey		Rast	
	Oh : Bimen Efendi'nin	Bimen Efendi		Segah	
	Bir Gün Seni Öpmuşdum:	Bimen Efendi		Nihavend	
	Bezm-i Vaslın:	Selânikli Ahmed Efendi		Acem Kürdi	
	Üç Yıl :	Muhlis Sabâhaddin Bey		Nihavend	
	Öpeyim Ağızını:	Muhlis Sabâhaddin Bey		Hümayun	
	Sevdim seni:	Tanbûrî Cemîl Bey		Nihavend	
	Süzüb süzüb: Tanbûrî Cemîl Bey	Tanbûrî Cemîl Bey		Nihavend	Rahmi Bey,

大きくスペースが割かれた広告が掲載されている。このことから，本資料の上演は1921年であることがわかる。

当時人気のブランシュ嬢はここでも重要な役割を担っている。彼女の他にも人気カント歌手たちが登場し，華やかな舞台が繰り広げられている。トルコ古典音楽演奏団体名は不記載であるが，曲目とその詳細情報は表Ⅲ-8-1の通りである。

最終曲目 Süzüb süzüb はタンブーリー・ジェミールの作となっているが，これはラフミー・ベイの作であり，誤記である。ここでもキュルディリヒジャーズキャール旋法の組曲とは別に，様々な旋法による曲が集められて演奏されていることがわかる。

Ⅳ．結論

トルコ古典音楽演目記載のある資料を検討した結果の一部を章末の表にまとめた。表Ⅳ-1では記載楽曲の作曲者とその生没年，掲載曲数を示した。表Ⅳ-2には，掲載曲と旋法，ウスール，作曲者を一覧にまとめた。表Ⅳ-3からⅣ-5は，松本2016に記載した表に若干手を加えたもので，順に出現演奏団体一覧，演奏団体構成メンバー，主な記載演奏家一覧である。これらから，①出演者の傾向，②演奏曲目の傾向などが浮かび上がってくる。①では市井，宮廷仕えなど，様々な身分の演奏家がおり，また出自もロマ，アルメニア人，ギリシャ人，アラブ人など多様で，帝都イスタンブルの複雑な文化的背景を如実に表している。②では，同時代あるいは直近の作曲家作品が多いことが表Ⅳ-1からもうかがえる。掲載曲は約80曲，そのうちペシュレヴやサズ・セマーイーなど作曲家を確定できない作品などに関わる推定候補者重複も含め計41名の作曲者の作品が掲載されており，うち同時代作曲家は31名と半分以上を占めていることからも，同時代の作曲家作品が選ばれていることがわかる。

これらの演劇資料群よりも若干後で発刊されることになる旋律学校楽譜集収録のトルコ古典音楽作品が時代を遡った作曲家の作品であったり，トルコ最大の作曲家とされるデデ・エフェンディの作品が一番多かったのに比して，ここではそうした傾向をみることができない。旋律学校の楽譜出版や古典音楽研究で指針とされた古典の集成や，古典作品に関する啓蒙は，本AA資料においては見て取ることはできず，かわりに，当時人気の作曲家や人気の作品などが実際の演奏の場では好まれていたのかもしれないことが窺える。

また，誤記も少なからずあり，作曲家名が記載されているもので最も誤記の多い作曲者は歌曲の大作曲家ハジュ・アーリフで，彼の作品が一番資料中に出てきているにもかかわらず，彼の名前は一箇所も記載されていなかった。彼の名前を同時代の演奏家たちが知らないはずもないので，彼の名前が出現しなかったことには何か理由があったのかもしれないが，現時点では不明である。

旋法は16の旋法が記載されている。そのうち，13の旋法の曲名が資料中に見られた。ヒュッザーム，シェッディアラバーン，ニハーヴェンド，キュルディリヒジャーズキャールなどが組曲として奏されている。これらの旋法は上演日の異なっても重複して出現する旋法でもあり，曲目も重複したものが多い。また，資料ごとに同一曲であるが旋法名が類似旋法名になっているものもある。ラーストやヒジャーズ，ウッシャークなども，様々な旋法の演奏曲一覧の中で散見される。キュルディリ・ヒジャーズキャールは当時作られた旋法であるので，盛んに演奏された可能性も高い。また，曲目は記載されていないが，旋法名のみが記載されている例として，マーフール Mâhûr，ミュステアール Müsteâr，スーズィディラーラー Sûz-i dil-ârâ の3つの旋法が挙げられる。AA資料以外の演奏会プログラムは現在調査している限りではあまり残存していないのだが，それらのプログラムには異なる旋法の組曲も選ばれているので，本資料に出現した旋法のみが当時好まれていたわけではないであろう。ただ，観客は静かにトルコ古典音楽の真髄を鑑賞しに来る，というタイプではまだないはずであるので，当時の誰もの耳に

馴染みやすい曲と旋法が選ばれた可能性はある。現時点で入手しているAA研資料以外の演奏会プログラム例は，①1915年１月７日オスマン演劇学校演劇公演内における同学校音楽団によるラースト旋法の古い作品を集めたプログラム（表Ⅳ-６），②1920年11月19日カドゥキョイのアポロン劇場で開催された東洋音楽協会によるタンブーリー・ジェミール記念コンサートの公演プログラム（表Ⅳ-７，８），③1921年10月29日（土）シェフザーデバシュのミッレト劇場における東洋音楽協会の公演プログラム（表Ⅳ-９）の３点である。①はメティン・アンド・コレクション Metin And Collection 内の１点，②，③はいずれもイスタンブルのアタテュルク図書館蔵である。①の貴重な資料を見せてくださった故メティン・アンド氏のご家族およびSabri Koz氏に謝意を表する。なお，本表に記載した同資料の演目情報はセヴェンギルも言及している（Sevengil 1968: 213）。①の演劇学校音楽団による演奏曲目は「古い」と記されていることからもわかるように，ハーフズ・ポスト Hafız Post（1620?-1694）やデデ・エフェンディ Dede Efendi Benli Hasan Ağa（1607-1662）といった，同時代ではない作曲家の作品も含まれており，「伝統」と「歴史」を意識したプログラム構成になっている。②は様々な作曲家の作品から構成されているが，タンブーリー・ジェミール・ベイの記念コンサートであるので，最終部には彼の秀作であるシェッドアラバーン旋法の作品が配置されている。②，③はいずれも東洋音楽協会のメンバーによる演奏であり，高名な歌手ミュニール・ヌーレッディンやタンブール奏者レーフィク・フェルサンなど綺羅星の如き演奏者たちが名を連ねている。ピアノやチェロなど西洋音楽楽器がトルコ古典音楽作品の演奏に含まれている点も見逃せない。演奏作品には会長アリ・リファト・ベイの作品が多いのも特徴である。③はデデ・エフェンディはじめゼキャーイー・デデ，大小オスマン，デッラールザーデなど著名な作曲家の作品が並び，同時代の作曲家はタトゥヨス，ユースフ・ベイ，そして同演奏会に出演した東洋音楽協会の会長であり，同演奏会を企画したアリ・リファト・ベイ（チャアタイ）の３人である。古典の名曲と，現代作曲家の作品が並列しているとともに，アリ・リファト・ベイの編曲により数曲の民謡が舞台上で演奏されているのも大きな特徴で，トルコ古典音楽と民謡とが同じ演奏の場に並ぶのはAA研資料の一部とも共通する。フェラーフナーク Ferahnak，ターヒル・ブーセリク Tahir Buselik，ニシャーブレク Nişaburek，ヒュセイニー Hüseyni といった，AA研資料には出現しなかった旋法による楽曲も演奏されているが，ラースト，スーズィナク，ニハーヴェント，ヒジャーズといった旋法はAA研資料と共通する。これら３点にはAA研のいくつかのパンフレットに見られたような作曲家等の誤記が無いが，これは各作品に正しい知識を持つ教育機関の演奏プログラムであるからであろう。AA研の資料において，誤記のある資料が市井の音楽家が代表を務める演奏団体によるプログラムであり，帝室音楽隊出身の演奏家が率いるプログラムでは誤記が少ないという現象とも一致する。この点は継続して調査予定である。

グループのリーダーは弦楽器奏者が務めていることが多い。４と５が突出して出現枚数が多いが，これはポスター下段の表記となっている。

ほとんどの演奏団体はこのように編成のみあるいは代表者名のみが付記される表記となっているが，数点表Ⅳ-４のように，構成員の名前が列挙されているものもある。

このような楽団構成員も含めた同資料に出現する主な演奏家名の一覧が表Ⅳ-５である。

これら演奏家たちのなかには，一般に個人名の表記が名前のみであるため，特定が難しい演奏家も存在する。セリムやアフメド，シェヴキ，シェムスィといった名前はたいへん多く，どの人物であるのかが極めて特定しにくいのである。出自から，アルメニア系，ユダヤ系，ギリシャ系などの非ムスリムも多く含まれていることがわかる。また，ロマの演奏家も多いことがわかる。市井の音楽家 piyasa muzisiyen とは，酒場などで流しの演奏なども行う，街中での演奏活動を主体とする音楽家たちのことを指している。冒頭のイスマイル・ハックのように，宮廷音楽家となる資質を備えた音楽家たちと一線を画すが，こうした市井の音楽家たちの活動の中に演劇公演における音楽活動を見て取れることは大きな発見でもある。彼らはこうした催事や演劇関連の上演に出演するだけでなく，同時にガズィノやビアホールなど，当時の様々な娯楽の場で音楽を提供しており，そうした彼らの活動と併せて本資料を見ることで，当時の演奏家の活動がより明確に浮かび上がってくるのである。

略歴などを照らし合わせて検討することでポスター上の誤記が読み取れる部分も出てくる。イスマイル・ハックは宮廷の筆頭声楽家 serhanende であったが，ポスターでは筆頭器楽演奏家 sersazende となっている。異なる音楽家である可能性も考えられなくもないが，筆頭声楽家や筆頭演奏家にまでのぼりつめる演奏家は少ないこと，「先生 muallim」という呼称が付記されていることなどから，特定可能であろう[12)]。

各データの確認作業を行う過程で，資料に表記されている作曲家が誤りであるものもかなりあること，誤字も多いこと，１つの作品に対して複数の作曲家候補があることが判明した。誤記は市井の音楽家すなわち，メムドゥフのように当時たいへん高名で重要な演奏家の一人であるが，帝室音楽隊における音楽教育を受けることのなかった演奏者たちが出演する場合に多い。これに対して，宮廷の筆頭声楽家であったイスマイル・ハックや，彼の弟子シェヴキーらが楽団を率いる資料では，誤記が少ない。これは，「記す」ことや「作曲家の重要性」といった，音楽を教育機関で学ぶ機会のある人間であれば知らず知らずのうちに身につける演奏とともに何を伝えるか，という意識が市井の演奏家にはあまり強く見られないことを示唆するとも考えられる。印刷は印刷所が行うので，そこで誤記が生じた可能性も当然ある。しかし，印刷所に正しい情報を伝えたかどうか，ということは資料からはうかがうことはできない。ただ，異なった音楽教育背景を持つ音楽家たちの意識が，こうした誤記出現の頻度にも見てとることができる可能性も，捨てきることはできない。

いずれにせよ，このように様々な音楽教育の背景・活動の場の相違をもつ演奏家たちの名が，当時の演劇・催事資料に記載されていることの重要性は，資料を調査していくうえでもひしひしと感じられた。これらの演奏家の中にはビュルビュルやメムドゥフなど，本人の演奏録音記録が残っている演奏家も含まれており，そうした音源からは，当時の演奏の様子をしのぶことができる。

本論ではトルコ古典音楽の記載曲目を中心に検討したが，本資料には，さらに多くの音楽情報データが記載されており，それらを１つ１つ分析していくことで，さらに往時の音楽活動の一片を明らかにしていくことができると考える。今後は新聞，レコードカタログ，雑誌記事，楽譜，各種文書などとも照合しながら当時の音楽活動の実態をより明らかにしていきたい。

謝辞：資料解読およびラテン文字転写をするにあたり，シェヒル大学教授ハティジェ・アイヌル Hatice Aynur 氏の深い専門知識に基づく協力は大変貴重であった。ここに謝意を表したい。

表Ⅳ-１　AA 資料に記載のトルコ古典音楽作品作曲家一覧

	同時代			eser sayı
1		Itri	1638?–1712	1
2		Dede Efendi	1778–1846	1
3		Denizoğlu Kemani Kıbti Ali Ağa	?–1860?	1
4		Hâşim Bey	1815–1868	1(2?)
5		Osman Bey	1816–1885	2
6		Rıf'at Bey	1820–1888	2
7		Yusuf Paşa	1821–1884	1
8		Nikoğos Ağa(Hanende Topkapılı Hoca Nikoğos Ağa Melkonyan)	1830?–1890?	1
9		Hacı Ârif	1831–1885	8(10)
10		Hacı Ahmed Faik Bey	1831?–1891	2?
11	1	Bolahenk Nuri Bey	1834–1910	1
12	2	Lavtacı Civan Ağa	?–1910?	1
13	3	[Hâfız Osman(Musullu)]	1840–1918	1
14	4	Asdik Ağa	1846–1912	1
15	5	Ûdî Afet	1850–1922	1
16	6	Tatyos	1858–1913	2
17	7	Lavtacı Hristo	?–1914	1
18	8	Mızıkalı Kadrî Bey	?–1917	1
19	9	İbrâhîm Efendi (Klarinet)	?–1925	6
20	10	Şevkî Bey	??1860–1891??	
21	11	Muharrir Ahmed Râsim Bey	1864–1932	1
22	12	Rahmi Bey	1865–1924]	1
23	13	Mu ʻallim İsmâ ʻîl hakkı Bey	1866–1927	3
24	14	Selânikli Ahmed Efendi	1868–1927	3
25	15	[İbrâhim Vefâ Efendi(Ferâizcizâde)]	1871–1903	1
26	16	Tanburi Cemil Bey	1871–1916	3
27	17	Faiz Kapancı	1871–1950	1
28	18	Kâzım Bey	1872–1938	1(2?)
29	19	Asdikzade	1872–1945	0
30	20	Bimen Şen	1873–1943	7
31	21	Misak Ağa	?–1930?	1
32	22	Arşak Çömlekciyan	1880–1930	1
33	23	Şevkî Bey(Ûdî–i)	1880–1959?	1
34	24	Rıza Bey	1881–1934	1
35	25	Şemseddin Ziya Çorluluzade	1882–1925	1
36	26	Ûdî–i Nasib'in Mehmed Yürü	1882–1953	2
37	27	Fafri Kopuz	1882–1968	1
38	28	Kanuni Artaki Candan	1885–1930	1
39	29	Muhlis Sabahaddin Ezgi	1889–1947	5
40	30	Ahmed Cevdet Çağla	1900–1988	1
41	31	Şekib Bey	??	1

表Ⅳ-2　AA研資料に出現するトルコ古典音楽作品一覧

旋法	曲種	歌詞冒頭	拍子	作曲家	生没年
Acem Kürdi	Şarkı	Bezm-i Vaslın		Selânikli Ahmed Bey	1868-1927
	Şarkı	Sevdi gönülüm Ey meleksîmâ seni		Nikoğos Ağa	1872-1945
Hicâz	Şarkı	Gel bir daha gül-rûyunu aç		Bimen Efendi	1873-1943
	Şarkı	İsmini Bilmiyordum		Bimen Efendi	1873-1943
	Şarkı	Öpeyim ağızını		Muhlis Sabâhaddin Bey	1889-1947
Hümayun	Şarkı	Öpeyim Ağızını:		Muhlis Sabâhaddin Bey	1889-1947
Hüzzâm	Peşrev			作曲家不明	
	Şarkı	Ey Melek		Nikoğos Ağa	1872-1945
	Şarkı	Neş'eyâb-ı lûtfen olsun bu ser-i şûrîdemiz		[Hâfız Osman Efendi(Musullu)]	1840-1918
	Taksîm			Hânende - Kemân	
	Şarkı	Şâd Olurdum	Ağır Aksak(9/4)	[Fahri Kopuz]	1882-1968
	Şarkı	Kâşke görmeydi	Ağır Aksak(9/4)	[Klarnetçi İbrahim]	?-1925
	Şarkı	Aşkın ezvâk-ı visâlinde yoktur emelim	Ağır Aksak(9/4)	[Klarnetçi İbrahim Efendi]	?-1925
	Taksîm			Kânûn Hânende	
	Şarkı	Gerçi o güzel gözlerine mail olan var	Sengin semai	[Klarnetçi İbrahim Efendi]	?-1925
	Şarkı	Zamanı var ki	Aksak(9/8)	[Klarnetçi İbrahim Efendi]	?-1925
	Şarkı	Kabir midir hiç		Mızıkalı Kadri/İsmail Hakkı	
	Saz Semâ'îsi			作曲家不明	
	Küşâd			Şevkî Bey	
	Şarkı	Hicrân İle		Ahmed Cevdet Çağla	1900-1988
Karcığar	Peşrev				
	Şarkı	Dinle Akılın	Ağır Aksak(9/4)	Hacı Ârif?	1831-1885
	Şarkı	Ey Felek	Ağır Aksak(9/4)	Asdik Ağa	1840-1913
	Şarkı	Tir-i çeşmânınla	Ağır Aksak(9/4)	Selanikli Ahmet Efendi	1868-1927
	Taksîm..(Kemân ile)				
	Şarkı	B(Y)ıkma Sakın	sengin semai(6)	Hacı Ârif	1831-1885
	Şarkı	Bir Goncaya	sengin semai(6)	Hacı Ârif	1831-1885
	Şarkı	Sinemi sad-pâre	Devri Hindi	Klarnet İbahim	?-1925
	Taksîm				
	Şarkı	Gönül Beni Usandırdı	Aksak(9/8)	Selanikli Ahmet Efendi	1868-1927
	Şarkı	Elimde İken	Curcuna	Lavtacı Hristo	?-1914
	Şarkı	Gönül Bezmi	Curcuna	Hacı Ârif	1831-1885
Kürdili Hicazkar	Küşâd (Kânûn)				
	Peşrev			Tatyos	1858-1913
	Beste	Gülistân-î	D.Kebir	İsmâ'îl Hakkı Bey	
	Ağır Semâ'î	Ah Benim		Bolâhenk Nûrî Bey	
	Taksîm (Kemân)				
	Şarkı	Sevdiğim gözlerinin	ağır aksak	Ûdî-i Mehmed Bey	
	Şarkı	Can Esir-i		Bimen Efendi	1873-1943
	Şarkı	Gaddar Felek		Klarinet İbrâhîm Efendi	?-1925
	Şarkı	Ta haşre Kadar		Bimen Efendi	1873-1943
	Şarkı	Yokdur Elemi		Ûdî-i Nasib'in Mehmed Yürü	1882-1953
	Taksîm - Ud, Hânende				
	Şarkı	Bir Gün Olur		Muhlis Sabâhaddin Bey	1889-1947
	Şarkı	Hüsn-ü anından		Şevkî Bey	
	Şarkı	Ferâk Yâre		Şevkî Bey	
	Sâz Semâ'îsi			Tatyos	1858-1913
	Küşâd			Şevkî Bey	
	Şarkı	Nâzlı Güzel Bebeciğim		Bimen Efendi	1873-1943
	Kânûn				
	Taksîm (Kemân)				
	Taksîm - Ud, Hânende				

Muhayyer	Şarkı	Bir Gün Olur	?Kürdilihicazkar	Muhlis Sabâhaddin Bey	1889–1947
	Şarkı	Nâzlı Güzel Bebeciğim	?Kürdilihicazkar	Bimen Efendi	1873–1943
Nihavend	Şarkı	Üç Yıl Beni		Muhlis Sabâhaddin Bey	1889–1947
	Peşrev			Tanbûrî Cemîl Bey	1871–1916
	Şarkı	Ey nihâl emelim	Ağır Aksak	Arşak Çömlekciyan	1880–1930
	Şarkı			Bimen Efendi	1873–1943
	Taksîm			Kemânî Memeduh Bey	
	Şarkı	Nâ Murâdım		Hacı Ahmed Faik Bey	1831–1891
				Haci Arif Bey	1831–1885
	Şarkı	Bir gün seni öpmüştüm		Bimen Efendi	1873–1943
	Şarkı	Seni En Nâzlı(kadınlar bile meftun_arıyor)	Nihavend semai	Rızâ Bey(Kapdanzade Kaanuni Ali Rıza Bey)	1881–1934
	Taksîm: (kurâateci? İbrâhâm – Hânende Fehmi Efendiler)			kurâateci? İbrâhâm – Hânende Fehmi Efendiler	
	Şarkı	Üç Yıl beni		Muhlis Sabâhaddin Bey	1889–1947
	Şarkı	Yâdigâr kaldı		Hacı Arif Bey	1831–1885
	Şarkı	Sevdim seni		Tanbûrî Cemîl Bey	1871–1916
	Şarkı	Süzüb süzüb		Rahmi Bey	1865–1924
	Saz Semâ ʻîsi			作曲家不明	
	Saz Semâisi			Tanbûrî Cemîl Bey	1871–1916
	Küşâd			Şevkî Bey	
	Şarkı	Nihâvend: Müjgân Gibi		Muhlis Sabâhaddin Bey	1889–1947
	Peşrev			Osmân Bey	1816–1885
	Şarkı	Nâr–ı ʻÂşıkınla	Ağır Aksak(9/4)	Rıf'at Bey	1820–1888
	Şarkı	Ahteri Düşkün	Ağır Aksak(9/4)	Hacı Ârif	1831–1885
	Şarkı	Bir Nigehle Yakdın	Sengin Semai(6/4)? Devri Hindi?	Misak ağa(?–1930?) veya Ûdî Afet (1850–1922)	
	Taksîm (Ûd)				
	Şarkı	ʻÂşık–ı Ateşi	Devr–i hindi(7)	Hacı Ârif'	1831–1885
	Şarkı	Dil Seni	semai(3)	Lavtacı Civan Ağa	?–1910?
	Şarkı	Bugün Deli divâneden		Kanuni Artaki Candan	1885–1930
	Taksîm (Kânûn)				
	Şarkı	Nâle–i Cângâh		Udi Afet Mısırlıyan	1850–1922
				Hacı Ahmed Faik Bey	1831–1891?
	Şarkı	Bakmıyor Çeşim–i Siyâh	Çifte Sofyan	Hacı Ârif	1831–1885
	Şarkı	[Aman] Ey Gonca Nevr[es] Nihâlim	curcuna	Rıf'at Bey	1820–1888
	Sâz Semâ ʻîsi			Yusuf Paşa	1821–1884
Rast	Şarkı	Düşüb bin türlü		Şekip Bey	
	Küşâd			Şevkî Bey	
	Şarkı	Muhabbet Bir Nâzlı kuşdur		Muhlis Sabâhaddin Bey	
	Şarkı	Leb–i renginine bir gül konsun	sofyan	Muharrir Ahmed Râsim Bey	
Rehavi	bir şâh asar			(Itri) merhum	
Segah	Şarkı	Oh	Aksak	Bimen Efendi	
Şetaraban	Taksîm Kânûn ile... Şevkî Bey				
	Peşrev			Tanbûrî Osmân Bey	
	Şarkı	Ateş–i Aşkın		Hâşim Bey	
	Şarkı	Ateş–i Hicrân		İsmâ ʻîl Hakkı Bey	
	Şarkı	Gözümden gönülümden		Dede Efendi	1778–1846
	Taksîm Hânende Hâfız ve Ûdî–i Şevkî Beyler				
	Şarkı	Senin aşkın ile		İsmâ ʻîl Hakkı Bey	
	Şarkı	Bahçelerde		Denizlioğlu'	?–1860?
	Taksîm Kemân ile .. Necâbeddin Bey				
	Sâz Semâ ʻîsi			Tanbûrî Cemîl Bey	1871–1916
	Peşrev				
	Sâz Semâ ʻîsi				
	Taksîm...Kânûn				
	Peşrev			Tanbûrî Cemîl Bey	1871–1916
	Şarkı	Gam Seni		Muallim Hoca Sakallı Kazım Uz	1872–1938
	Şarkı	Git Elem		Ûdî Şevkî	
	Taksîm..Kemânî Cevdet Bey tarafından				
	Şarkı	Ey gonca–yı açıl		Şemseddin Ziya Çorluluzade	1882–1925
	Şarkı	Bir Kuzum var		Şevkî Bey	
	Şarkı	Senin aşkın	aksak	İsmâ ʻîl hakkı Bey	
Uşşak	Şarkı	Bir Görüşde		Bimen Efendi	1873–1943

表Ⅳ-3 主なトルコ古典音楽出演団体

	演奏団体	出現枚数
1	金角湾体操クラブ	3
2	音楽学校	2
3	オスマン音楽学校	2
4	ヴァイオリン奏者ディクランの楽団	10
5	有名なヴァイオリン奏者アシュキーのトルコ古典音楽団	20
6	ヴァスィラキの完璧な 7 人編成トルコ古典音楽団	3
7	ヴァイオリン奏者メムドゥフのトルコ古典音楽楽団	9
8	ケメンチェ奏者ヤンコの 5 人編成トルコ古典音楽楽団	1
9	メムドゥフとビュルビュル・サーリヒ率いる我が国の最も人気のある声楽家および演奏家による 20 人編成	1
10	スルタン閣下の筆頭器楽演奏家（ママ）にして尊敬すべきイスマイル・ハック先生率いるトルコ古典音楽団	1
11	ケメンチェ奏者アナスタシュ率いるトルコ古典音楽団	2

表Ⅳ-4 構成員の名前が明記されている例

高名なヴァイオリン奏者メムドゥフ，高名なカーヌーン奏者シェムスィ，声楽家アスディクザーデ・ボゴス，カラカシュ，サトベク，シャーイルザーデ・ミフランらの有名な室内楽団(トルコ古典音楽)[1899 年 11 月 14 日]
ヴァイオリン奏者アシュキー，ウード奏者セリム，カーヌーン奏者イェルヴァント，声楽家アフメド，オンニキ，キリコルたちによる室内楽団(トルコ古典音楽)[1900 年 1 月 21 日，1 月 14 日，1 月 3 日，1 月 15 日]
高名な芸術家たちの中からヴァイオリン奏者イフサン，カーヌーン奏者アマー・アリ，声楽家アフメド，ラヴタ奏者オヴリク，声楽家アスディクザーデ・ボゴス，ウード奏者サルキス，声楽家アルシャクたちによる真に選び抜かれた室内楽団(トルコ古典音楽)[上演年不記載，ラマダーン月 3 日]
ケメンチェ奏者アナスタシュ，カーヌーン奏者ミハル，声楽家アフメド，ランボ，ホヴリクらの室内楽団[1899 年 11 月 19 日(土)，1900 年 1 月 10 日(火)]
ハーフズ・ヤシャール，ヴァイオリン奏者イフサン，ウード奏者アブディー，カーヌーン奏者小アフメド，クラリネット奏者バフリー，声楽家イブラヒムらの室内楽団[上演年不記載，ラマザン月 8 日(火)]

表Ⅳ-5 主な出現演奏家名

演奏家名	生没年	特性
イスマイル・ハック İsmail Hakkı	1866-1927	同時代の重要な作曲家の一人。13 歳で帝室音楽隊に入る。短期間でスルタンお抱えのアザン朗誦者，宮廷古典音楽団の筆頭声楽家となる。オスマン音楽学校を開き，旋律学校でも教鞭をとり，多くの学生を育てた。旋律学校では古典音楽編纂委員会のメンバーにラウフ・イェクターやアフメド・ウルソイとともに任命された。
ヴァスィラキ Vasilaki	1845-1907	高名なケメンチェ演奏家。スィリヴリ出身のギリシャ系ロマ。1870 年頃ガラタに移住。ラヴタジ・アンドンのガラタサライのガズィノにある音楽団に，ケメンチェ奏者ニコラキの次席奏者として入る。
メムドゥフ Memduh	1868-1939	同時代の最も有名な市井のヴァイオリン奏者の一人，ロマ。多くのレコード録音。
アスディクザーデ・ボゴス Asdikzade Bogos	1872-1945	アルメニア系の市井の声楽家
アマー・アリ Ama Ali	?-1941	盲目のカーヌーンの名手。ガズィアンテプ没。盲目。アラブ諸国で名声が高い。シャルク作曲。

ビュルビュル・サーリヒ Bülbül Salih	?–1923	ロマのヴァイオリン奏者。市井の演奏家として 19 世紀末から 20 世紀初頭にかけて大きな名声を得た。鶯の声を模倣したため，うぐいすの呼称がついている。シャルク（歌曲）も作曲。録音あり
イフサン İhsan	1884–1935	トルコ人ネイ奏者。
ラヴタジ・オブリキ Lavtaci Ovrik	1872–1936	アルメニア系，高名な市井のラウタ奏者。
アナスタシュ Anastaş	?–1938?	スィリヴリ出身，ギリシャ系ロマの市井のケメンチェ奏者。レコード録音あり。
イフサン İhsan	?–1920?	ロマのヴァイオリン奏者
カラカシュ Karakaş	?–1920?	ユダヤ系の高名なファスル声楽家
シャーイルザーデ・ミフラン Şairzade Mihran	?–1910?	アルメニア系声楽家
アーフェト Afet	1850–1922	アルメニア系の市井の演奏家，歌曲作曲者
セリム Selim	?–1930?	ユダヤ系ウード奏者
シェムスィ Şemsi	1850?–1922?	テッサロニキ生まれのカーヌーン名手。ディレクレルアラスで床屋を経営。
シェヴキ Şevki	1880–1959	ウード奏者。帝室音楽隊で学ぶ。イスマイル・ハックの弟子。シャルク（歌曲）も作曲。
アフメド Ahmed	1868–1927	テッサロニキ生まれのシャルク（歌曲）作曲家。市井の声楽家，後にウード奏者として有名に。41 歳でイスタンブルに移住した後 13 年間イスタンブルの市井で高名な奏者として活動。約 700 のシャルク作曲。
アブディー・ベイ Abdi Bey	?–1950?	トルコのウード，タンブール奏者。シャルクも作曲

表Ⅳ-6　1915年1月7日オスマン演劇学校演劇公演における同音楽団によるラースト旋法の古い作品プログラム

	曲種	作曲家	歌詞の冒頭
1	taksim	Dârulbedây muallimlerinden Cemil Bey	
2	Râst Peşrevi	Benli Hasan Ağa	
3	Râst Kâr–Nev　/ Usul: Ağır Düyek	Dede Efendi merhum	Gözümde dâim hayal–i cânân
4	Râst Yürük Semâi	Hafız Post	Gelse o şuh
5	Şarkı	Hacı Arif Bey	Gösterip
6	Saz Semâisi	Benli Hasan Ağa	

（Metin And Collection より作成）

表Ⅳ-7 1920年11月19日カドゥキョイのアポロン劇場で開催された東洋音楽協会によるタンブーリー・ジェミール記念コンサートの公演プログラムより演目一覧

Konferans	ʻAlî Rif ʻat Bey tarafından				
旋法	曲種	特定の個人出演演奏者	歌詞冒頭	リズム	作曲家
Nihavend Faslı					
1	Medhal				ʻAlî Rif ʻat Bey(1867–1935)
2	Murabba ʻ		Zülfün Görenlerin	Lenk Fahte Vezininde Murabba	ʻAlî Rif ʻat Bey
3	Murabba ʻ		Nalendedir Ney Gibi	Muhammes Vezninde Murabba	ʻAlî Rif ʻat Bey
4	(Şarkı)		Gördüm Yine Bir	Aksak Semâî	ʻAlî Rif ʻat Bey
5	(Şarkı)		Baharıya		ʻAlî Rif ʻat Bey
Ferahnak Faslı					
1	Peşrev				Zeki Mehmed Ağa
2	Murabba ʻ		Söyletme Beni	Hafif vezninde Murabba ʻ	Zekâî Efendi
3	(Şarkı)		Künc–i Gamdâ	Ağır Aksak	Dellâl Zâde
4	Taksîm	Kemâl Niyâzî ve Hüsâmeddîn Beyler			
5	(Şarkı)		Olmadım Ben	Çifte Sofyan(Yürük Aksak)	Dellâl Zâde
6	Vals		Hoş Yaratmış	Vals(Yürük Semai)	Nikoğos Ağa
7	(Şarkı)		Sensiz Cihanda	Semâî	Zekâî Efendi
Tahir Buselik Faslı – Fantezi					
1	Taksîm	Fâize Hanım<Hanımlar kısımında>			
2	Peşrev			Muhammes vezninde	Kemânî Rızâ Efendi
3	Taksîm	Hâfiz Cemâl Bey tarafından			
4	Yürük Semâî	Hâfiz Cemâl Bey tarafından solo			Dede merhum(İsmail Dede Efendi)
5	Sâz Semâîsi			(Aksak Semai)	ʻAlî Rif ʻat Bey
	Bu fasla yalnız tanburler ve kemençeler iştirak edecektir.				
Hicaz Faslı					
1	Medhal		Asıllı tat		ʻAlî Rif ʻat Bey
2	Hümayun Peşrevi 2 hane			Devr–i Kebir	Büyük Osmân Bey
3	Murabba ʻ	Münîr Nûreddîn Bey <Solo>	Düşme Son		Zaharya Efendi
4	(Şarkı)		Niçin A Sevdiğim	Evsat (Nim Evsat)	Nikoğos Ağa
5	Türkü		Şu Karşıki Dağıda	(Aksak)	(Dede Efendi)
6	(Şarkı)		Baharın Zamanı Geldi	(Aksak)/(Yürük Aksak Köçekçe, Muhammes)	Dede merhum(İsmail Dede Efendi)
7	Taksîm	Münîr ve Nûrî Beyler			
8	(Şarkı)		Yine Neş'e–i Muhabbet	(Yürük Semai)/Nakış Yürük Semai	Dede merhum
9	Sâz Semâîsi				Yûsuf Paşa
Şiir	Nâzım Hikmet Bey				
Kar–ı nev	Rast Kar ʻAlî Rif ʻat, Kemâl Niyâzî, Cemâl, Nûrî, Cevdet Beyler refâkatıyle Münîr Nûreddîn Bey tarafından Solo.		(Gözümde daim hayal–i canan)	(Ağır Düyek)	Dede merhum
Keman ile Longa	7 yaşında mini mini Nülfer Hanım tarafından				
Şet araban Faslı					
1	Peşrev				Tanbûrî Cemîl Bey
2	Sâz Semâîsi				Tanbûrî Cemîl Bey
3	Köçekçe		Kağıthane Havası		ʻAlî Rif ʻat Bey

表Ⅳ-8 タンブーリー・ジェミール記念コンサートの出演演奏者

Konser re'îsi	Re'îsi Ali Rıf'at Bey
Ser Mu'allim:	Zekâî Zâde Hâfız Ahmet Efendi
Ser Sâzende ve Solfej Mu'allimi	Leon Hancıyan Efendi
Ser Hânende ve Mu'allim	Hüsâmeddîn Bey
Hânende	Münîr Nûreddîn Bey
Hânende	Hâfız Hüseyin Bey
Hânende	Hâfız Cemâl Bey
Viyolonsel	'Alî Rif'at Bey
Piyano	Cevdet Bey
Armonium	Cemâl Bey
Kemençe	Mu'allim: Kemâl Niyâzî Bey
Kemân	Madmazel *****
	Küçük Tâbinâk Hanım
	Mu'allim Omer Bey
Sine Keman	Mu'allim Nûrî Bey
Tanbûr	Mu'allim Hikmet Bey
	Refik Bey
	Mes'ûd Bey
	Hatıf Bey
Nây	Mu'allim Hâfız Omer Efendi
	İhsân Bey
Ûd	Fahrî Bey
Hanımlar Kısımına ('İlâve)	
Ser Hânende	Zâhide Hanım
Tanbûr	Mu'allime Fâize Hanım
	Lâ'ika Hanım
Kânûn	Mu'allime Nezîfe Hanım

表Ⅳ-9 1921年10月29日（土）シェフザーデバシュのミッレト劇場における東洋音楽協会の公演プログラム

1. Suznak					
1	Peşrev 3. Hane		(Devr-i kebir)	Emin Ağa	[1750?-1814]
2	Nakış	(Serde hevây-ı kâkül, dilde hayal-i canan)	Lenk Fahte	Hoca Zekâî Efendi merhum	[1825-1897]
3	Murabba‘	(Sinede bir lahza)	Devr-i kebir	Dellâl Zâde	[1797-1869]
4	Taksîm	Solist Münîr Nûreddîn Bey tarafından umum sazın iştirakıyle			
5	(Şarkı)	Nesin Sen	Ağır Semâî	Dede merhum	[1778-1846]
6	Sâz Semâîsi			Kemânî Tatyos	[1858-1943]
2. Bülül					
Şair Mehmed Akif Bey'in manzumesi ‘Alî Rif‘at Bey tarafından bestelenmişdir.					
3. Nişaburek					
1	Medhal			‘Alî Rif‘at Bey [Çağatay]	[1867-1935]
2	Peşrev 3-4. Hane		(Hafif)nota	Büyük Osmân Bey merhum	[1816-1885]
3	Murabba‘		Zencir	Enfi Hasan Ağa merhum	[1670?-1729]
4	Armonili Şarkı	Meyl Edip	(Yürük Semai)	‘Alî Rif‘at Bey [Çağatay]	
5	Kadîm Türkü	Bahçeye Kurdum		‘Alî Rif‘at Bey tarafından Fantezi haline konulmuştur.	
6	Kadîm Türkü	Yemenimin Uçları(Hüzzam)			
7	Sâz Semâîsi			Küçük Osmân Bey merhum	[1825?-1900?]
4. Hüseyni					
1		Edalı Bir Yosma		‘Alî Rif‘at Bey [Çağatay]	
2		Saçın bükümleri	(Curcuna)	Hâfız Yûsuf Bey	[1857-1925]
3	Türkü	Sıla Türküsü			
4	Anadolu Havaları	Sefer Türküsü		‘Alî Rif‘at Bey [Çağatay]	
5	Anadolu Havaları	Ana Türküsü		‘Alî Rif‘at Bey [Çağatay]	
6	Anadolu Havaları	Memleket Havası		‘Alî Rif‘at Bey [Çağatay]	

（[ ]は筆者による補足）

注

1）SEVENGİL など。
2）www.aa.tufs.ac.jp/osman/forword/for_main.html。2017 年 3 月にトルコ語サイトも江川により新設された（http://osmanlitiyatro.aa-ken.jp/）。
3）永田；江川 2016:
4）彼女は AA 資料中上演年月日・場所不記載の別パンフレットにも出演している。
5）イスマイル・ハック・ベイについては Öztuna 2006a: 309-310, Kaygusuz 2006: 4-5, など。
6）シェヴキー・ベイの情報に関しては Öztuna 2006II: 357。
7）Muallim İzzeddin Hümayi Elçioğlu の情報に関しては İnal 1958: 209, Öztuna 2006I: 258-259.
8）Öztuna 2006I: 35, GÜNTEKİN 2010: 39
9）同クラブに関しての情報はまだ収集できていないが，1911 年に設立された音楽・体操協会 Müzik ve Cimnastik Cemiyeti のように（Erol 2014: 75）この時期社会性を養う活動のひとつとしてスポーツと音楽両方の活動を行う団体もあり，これはそうした団体による活動の 1 つであるかもしれない。
10）シェヴキー・ベイが恒常的にこのクラブの古典音楽団と関わりを持っていたかどうかはまだ確認ができていない。
11）Ⅲ-2 の演目は計 10 曲だが，うち 3 曲は即興のタクスィームであるため，固定演目は 7 曲となる。
12）松本 2016

参考文献

1．東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所所蔵演劇資料：

21 Eylül 1911（Pazar），，（Broşür, AA Koleksiyonu）
7 Eylül 1916（Perşembe），（Broşür, AA Koleksiyonu）
3 Ağustos 1920（Salı），（Broşür, AA Koleksiyonu）
5 Mart 1921（Cumartesi），（Broşür, AA Koleksiyonu）
10 Mart（Çarşamba）（Broşür, AA Koleksiyonu）
23 Teşrîn-i sânî（Çarşamba）（Broşür, AA Koleksiyonu）
16 Mart（Salı）（Broşür, AA Koleksiyonu）

2．歌詞集史料

EMRİ, Mustafa（Mektubi Seraskeri Kalemi Hülefası）. 1324（1906-1907）. *Yeni Şarkı Mecmuası cuz5*. İstanbul: İkbal Kütübhanesi（Kasbal Matbaası）.

KEMENÇECİ ALEKO. 1331［1915］. *Nevzâd-ı Mûsîkî*. İstanbul.

KONUK, Ahmed Avni. 1317［1900］. *Hanende: Müntehab ve Mükemmel Şarkı Mecmuası*. İstanbul: Mahmud Bey Matbaası

TAHSİN, Hasan（Maarif Nezaret-i Celilesi Evrak Kalemi hulefasından）
1317［1900］*Güldeste-i Musiki Cuz1-14*. İstanbul: Kasbar Matbaası.
1322［1906］*Gülzâr-ı Mûsîkî*. İstanbul: Mürettibiye Matbaası

Ûdî Hacı Ağa. N.d. En Son Yeni Kanto Mecmuası. İstanbul: Yeni Turan Matbaası.

Ûdî Sâmî（Sâmî Bey, Ûdî Sâmî Hattat, Şarkı Musiki Cemiyeti Heyet-i Talimiyesi'nden）（1874-1939?）
1337［1921］*Ahenk: Eski ve En Müntehab Şakı Ve Kantoları Havi Mecmua*. İstanbul: Sancakcıyan Matbaası.

Anon. 1310（1892-1893）. *Yeni Kantolar: Elliyi Mütecaviz Yeni Kantolar*. İstanbul.

３．楽譜史料

Muharrir Ahmed Râsim Bey. n.d. “Leb-i renginine bir gül konsun”, *Müntehabât No.181*, İstanbul: KudmânîzâdeŞâmlı İskender

Ûdcı Şamlı İskender. n.d. *Nihâvend: Chant Turc*, İstanbul.

Ûdcı Şamlı İskender. n.d. *Acem Kürdî: Chant Turc*, İstanbul.

Ûdcı Şamlı İskender. n.d. *Hüzzam: Chant Turc*, İstanbul.

Kudmanizade（Kazmanizade?）Şamlı İskender. 1338. *Bestekâr-ı Şehîr Bimen Efendi Külliyât-ı Mûsikîyesi*, Vol.2. İstanbul: Matbaa-i Amire.

Kudmanizade Şamlı İskender（Muallim İsmail Hakkı? Tarafından tertib ve ??）. n.d. Segah Faslı. İstanbul

Kudmanizade Şamlı İskender. n.d. Şedaraban Faslı（13）, İstanbul.

. 1340 1924. *Rast Faslı*. İstanbul: Ûdî Arşak

n.d. *Chant Turc: Nehavend*. İstanbul: Ûdî Şâmlı İskender

Kudmanizâde Şamlı İskender. n.d. *Asâr-ı Mûsikî 2*.

Şamlı Selim. n.d. *Nota Mecmuası 1: Chant Turc – En Son Yeni ve Müntehab Şarkılar*. İstanbul: Ahmed Kamil? 1 guruş

Şamlı Selim. n.d. *Nota Mecmuası 2: Chant Turc – En Son Yeni ve Müntehab Şarkılar*. İstanbul: Ahmed Kamil?

Şamlı Selim. n.d. *Nota Mecmuası 3: Chant Turc – En Son Yeni ve Müntehab Şarkılar*. İstanbul: Ahmed Kamil? 1 guruş

Darüttalim n.d. *Külliyatı: Darüttalim-i Mûsikî'den Asar-ı Nefis Musiki Notası*, Numero 14.

Ali Gâlib 1310. *Nota Mecması, Numero 2?*. İstanbul: Alim Matbaası – Ahmed İhsan ve Şirkâsı.（Osmanlı Meşahir Musikişinasatı tarafından bestelenen ruhnevaz şarkıların notalarını havi olmak üzere tertib edilmiş mecmuadır）（1310）

Ali Gâlib 1315. *Nota Mecması, Numero 15*. İstanbul: Alim Matbaası – Ahmed İhsan ve Şirkâsı.

Ali Gâlib 1316. *Nota Mecması, Numero 31*. İstanbul: Alim Matbaası – Ahmed İhsan ve Şirkâsı.

４．定期刊行物史料

İkdam 8288, 1920 March 10

İkdam 8399, 1920 July 3

İkdam 8868,（1921 November 23）

İkdam 8525, 1920 December 1

Vakit 847

５．トルコ語，日本語文献

SEVENGIL, Refik Ahmet

AND, Metin

1971. *Meşrutiyet Döneminde Türk Tüyatrosu*. Ankara: Türkiye İş Bankası Kültür Yayınları.

1972. *Tanzimat ve İstivdat Döneminde Türk Tiyatrosu: 1839-1908*. Ankara: Mars Basımevi.

1976. *Osmanlı Tiyatrosu: Kuruluş-Gelişimi-Katkısı*. Ankara: Ankara Üniversitesi Basımevi.

1999. *Osmanlı Tiyatrosu*. Ankara: Dost.

ALIMDAR, Selçuk

2016 *Osmanlı'da Batı Müziği*. İstanbul: Türkiye İş Bankası Kültür Yayınları.

ALUS, Sermet Muhtar

2005 *30 Sene Evvel İstanbul: 1900'lü Yılların Başlarında Şehir Hayatı*. İstanbul: İletişim.

ARACI, Emre
2010 *Naum Tiyatrosu*. İstanbul: Yapı Kredi Yayınları.
AYAS, Güneş
2014 *Musiki İnkılabı'nın Sosyolojisi: Klasik Türk Müziği Geleneğinde Süreklilik ve Değişim*. İstanbul: Doğu Kitabevi.
BEHAR, Cem
1987 *Klasik Türk Musıkisi Üzerine Denemeler*, İstanbul: Bağlam Yayınları.（日本語訳新井政美, 1992年,『トルコ音楽にみる伝統と近代』, 東海大学出版会）
2008［2005］*Musikiden Müziğe*. İstanbul: Yapı Kredi Yayınları.
2014［1998］*Aşk Olmayınca Meşk Olmaz*. İstanbul: Yapı Kredi Yayınları.
ÇETİNTAŞ, Burak
2010 "İncesaz Takımları Üzerine Birkaç Söz Ve Şinasi Akbatu'nun Kaleminden '60 Yıl Önce İstanbul'da İncesaz Takımları'.", *Musikişinas*, Sayı11, pp.207-243.
EROL, Merih. 2014. "Osmanlı Son Döneminde Rum Musıki Cemiyetleri", *Toprumsal Tarih*, Sayı 242, pp. 69-75.
ERKAN, Mustafa. 2015. "Ali Rifat Çağatay ve Şarkılarında Kullandığı Güfteler", *Journal of Institute of Social Sciences*, Vol.33: 69-79.（78p şarkı cemiyeti konseri）
GÜNTEKİN, Mehmet. 2010. *İstanbul'un 100 Musikişinası*. İstanbul: İstanbul Büyükişehir Belediyesi Kültür A.Ş. Yayınları.
HİÇYILMAZ, Ergun. 1999. *İstanbul Geceleri ve Kantolar*. İstanbul: Sabah Kitapçılık.
Beni Toprağıma Gömün.
İNAL, İbnülemin Mahmut Kemal. 1958. *Hoş Sada: Son Asır Türk Musikişinasları*. İstanbul: Maarif Basımevi.
KALENDER, Ruhi
Yüzyılmızın Başlarında İstanbul'un Musiki Hayatı. Pp.411-444.
KALİVİOTİS, Aristomenis
2013 *İzmir Rumlarının Müziği*: *1900-1922*.（Çeviren: Yılmaz Okyay）, İstanbul: Yapı Kredi Yayınları.
KARABOĞA, Kerem
2010 *Geçmişten Günümüze İstanbul Tiyatroları I: Suriçi İstanbul'u, Bakırköy ve Çevresi*. İstanbul: Yapı Kredi Yayınları.
KAYGUSUZ, Nermin. 2006. *Muallim İsmail Hakkı Bey ve Mûsıkî Tekâmül Dersleri*, İstanbul: İTÜ Vakfı Yayınları.
松本奈穂子　2016「東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所所蔵のオスマン朝末期演劇興業資料に見られる音楽関連データ」,『東海大学紀要教養学部』, 46号, pp.143-190.
永田雄三　2006「オスマン帝国末期イスタンブルの演劇空間」,『駿台史学』Vol.129, pp.105-128.
永田雄三・江川ひかり　2015『世紀末イスタンブルの演劇空間』白帝社 .
O'CONNELL, John Morgan. *Alaturka: Style in Turkish Music (1923-1938)*.
ÖZSOYSAL, Fakiye & BALAY, Metin
2010 *Geçmişten Günümüze İstanbul Tiyatroları III: Anadolu Yakası*. İstanbul: Yapı Kredi Yayınları.
ÖZTUNA, Yılmaz. 2006［1969］a. *Türk Mûsikîsi: Akademik Türk San'at Mûsikîsi'nin Ansiklopedik Sözlüğü I*, Ankara: Orient Yayınları.
——— 2006［1969］b. *Türk Mûsikîsi: Akademik Türk San'at Mûsikîsi'nin Ansiklopedik Sözlüğü II*, Ankara: Orient Yayınları.
ÖZÖN, M. Nihat; DÜRDER, Baha. 1967. Türk Tiyatrosu Ansiklopedisi. İstanbul: Remzi Kitabevi.
ÖZTÜRK, Banu

2011 “1908 Meşrutiyeti ve Müzik”, *Folklor/Edebiyatı*, Cilt 17, Sayı65: 81-96.

PAÇACI, Gönül. 2010. Osmanlı Müziğini Okumak. İstanbul: Kültür ve Turizm Bakanlığı.
Kanto Diyanet Vakfı İslam Ansiklopedisi,

PEKMAN, Yavuz
2010 *Geçmişten Günümüze İstanbul Tiyatroları II: Beyoğlu, Şişli, Beşiktaş, ve Çevresi*. İstanbul: Yapı Kredi Yayınları.

SAĞLAM, Atilla
2009 *Türk Musiki/ Müzik Devrimi*. Bursa: Alfa Aktüel.

SAKAOĞLU, Necdet & AKBAYAR, Nuri
1999 *A Thousand Days and A Thousand Nıghts: The World of Entertainment in İstanbul from Ottoman Times to the Present Day*. İstanbul: Creative Yayıncılık.

SALGAR, M. Fatih
2011 *Hacı Arif Bey: Hayatı, Sanatı, Eserleri*. İstanbul: Ötüken.

SEVENGİL, Refik Ahmet
1961 *Tanzimat Tiyatrosu*. İstanbul: Milli Eğitim Basımevi.
1968 *Meşrutiyet Tiyatrosu*. İstanbul: Milli Eğitim Basımevi.

Türkiye Radyo-Televizyon Kurumu Müzik Dairesi Başkanlığı（TRT）. 1979 *TRT Türk Sanat Musikisi Sözlü Eserler Repertuvarı*. Ankara.

――― 2004a（1996）*Türk Sanat Müziği Seçme Eserler 1*. Ankara.

――― 2004b（1996）*Türk Sanat Müziği Seçme Eserler 2*. Ankara.

ULU, Cafer. 2007. *Turkiye Cumhuriyeti’nde Ermeniler*.

ÜNLÜ, Cemal. 2016. *Git Zaman, Gel Zaman: Fonograf – Gramofon – Taş Plak*. İstanbul: Pan Yayıncılık.（Online Plak Kataloğu）

ÜSTEL, Füsun
1999 “1920’li ve 30’lu Yıllarda “Milli Musiki” ve “Musiki İnkılabı”, in Paçacı（ed.）*Cumhuriyet’in Sesleri*, pp.40-49.YILMAZ, Zeki. 2013. *Tanburi Cemil Bey*. İstanbul: Çağlar Musiki Yayınları.

Abstract

Description of Turkish Classical Music in Documents on Performing Arts from the Late Ottoman Empire

Nahoko MATSUMOTO

In this study, I focus on documents on performing arts from the Late Ottoman period, included in the collection of Reseach Institute for Languages and Culture of Asia and Africa of the Tokyo University of Foreign Languages (AA Collection). This collection consists of 170 pieces (232 faces).

Although most of these documents are mainly about theater, they also cover other performing arts, such as orchestra, (military) bands, Turkish classical music ensembles, *kanto* singers (Peruz Hanım, Şamram Hanım, Küçük Eleni Hanım, Viktoria Hanım, Ameliya Hanım, Todori Efendi, etc.), magicians, acrobats and foreign singers/dancers. Besides several theater pieces, there are also music and dance elements. Therefore, these documents can be recognized as important musical materials, reflecting the coexistence and dynamic mixture of various music genres – west and east, urban and rural, popular and classic, national and foreign -, in the late Ottoman period. Notable Turkish classical music composers found in the AA Collection are: Dede Efendi (1778-1846), Itri (1638-1712), Bimen Efendi (1873-1943), Tatyos Efendi (1858-1913), Tanbûrî Osman Bey (1816-1885), Şevkî Bey (1860-1891), Muhlis Sabâhaddin Bey (1889-1947), Selânikli Ahmed (1868-1927) and so on. Most of them were contemporary composers. Some of the Turkish classical music players found in the AA Collection are: Bülbül Salih Efendi (?-1923), İsmail Hakkı Bey (1866-1927), Asdikzâde Bogos (1872-1945), Lavtacı Ovrik (1872-1936), Hânende Karakaş (?-1920?), Kemençeci Anastaş (?-1938?) and Udî Şevkî (1880-1959). European classical music composers, such as Giuseppe Verdi (1813-1901), Georges Bizet (1838-1875) and Charles Gounod (1818-1893) and their famous pieces can be found in the Collection. In this study, documents about Turkish Classical Music, *ince saz*, will be examined.

Among these documents, eight pamphlets include detailed information, such as the name of the composers, music forms, song titles, and music ensembles. Three of these pamphlets include the dates of the performance: Thursday, September 7, 1916; Tuesday, August 3, 1920; Saturday, March 3, 1921. I identified the performing years of the rest of the five pamphlets by researching Ottoman newspapers of the time such as *İkdâm, Tanin, Servet, Tarik and Vakit.* The year of performance of the pamphlet with the date of Wednesday, March 10, is 1920 (*İkdâm* No.8288). Similarly, 1920 is the year of performance of the pamphlets with the date of Tuesday, March 16 (*Vakit* No. 847), Saturday, July 3 (*İkdâm* No. 8399), Wednesday, December 1 (*İkdâm* No. 8525) and Wednesday 23 *Teşrîn-i sânî* (*İkdâm* No. 8867 and 8868).

There are 16 *makâm* in these documents: *Hüzzâm, Şeddiaraban, Nihâvend, Küldilihicazkar, Râst, Hicâz, Uşşâk, Muhayyer, Mâhur, Müstear, Sûz-i dil-ârâ, Rehavi, Segah, Acem Kürdi,*

Hümayun, and Karcığar. The total number of Turkish classical music pieces are about 100, while the total number of the composers are 41. Some inconsistencies can be seen in these data. For example, although eight music works of Haci Arif are included in these documents, the names of their composers are all incorrect. I corrected these errors; supplementary data are displayed in the tables of this paper.

For comparison purposes, I also examined the pamphlets of *Tanburi Cemil* memorial concert (November 19, 1920), of the pamphlet of *Şark Cemiyeti* (October 29, 1921) and of *Darulbeday* in 7 Kanunevvel 1331perşenbe (January 7, 1915).